建学の精神『礼節・勤労』

人間として限りなく大事なもの　礼節・勤労、良識・信頼
私たちの大学はこれらを強く求め、実践しています。

宮崎学園短期大学校歌

作詞　狩野　満
作曲　石田良男

一

美しや
霧島山を見はるかし
風わたる忍ヶ丘に
　学舎立てり
　　われらが母校
集ひきてけふこそ学べ
若きわれらの夢ははるけし

二

学ばずや
清武川の水光り
古き日の歴史のあとに
　学舎立てり
　　われらが母校
人らしき人にあるべく
若きわれらの道ははけはしき

三

讃へずや
学の自由を旗として
新しきあすをめざすと
　学舎立てり
　　われらが母校
よき友に会ひて語らん
若きわれらの花は友垣

四

ゆかしきや
白雲遠く消ゆる果て
南国の潮騒ききて
　学舎立てり
　　われらが母校
時うつり別れゆくとも
若きわれらの胸にうたはむ
　あゝわれらが母校
　　われらが母校

目 次　CONTENTS

建学の精神 …… 1
校歌 …… 2
目次 …… 3
理事長挨拶 …… 4
学長挨拶 …… 5
祝辞 …… 6
歴代理事長 …… 10
歴代学長 …… 11
沿革 …… 12
誓いの言葉 …… 16
在学生 寄稿 …… 17
卒業生 寄稿 …… 22
大学の取り組み …… 34
小冊子“忍ヶ丘”から辿る足跡 …… 38
50年のアルバム …… 42
特別寄稿「三世代卒業生」…… 62
大学周辺紹介 …… 64
創立50周年記念行事概略 …… 66
校舎建て替えについて …… 67
歴代教職員一覧 …… 68
年度別卒業生 …… 74
編集後記 …… 75

学校法人 宮崎学園
理事長
山下 恵子
Keiko Yamashita

宮崎学園短期大学の創立50周年に当たり、ご挨拶を申しあげます。

学校法人宮崎学園は、昭和14年に宮崎女子商業学院、宮崎高等裁縫女学校として大坪資秀初代理事長によって創設され、建学の精神「礼節・勤労」のもと、地域に密着した職業人の育成に力を注いで参りました。創設者の教育に対する熱意と理念は、大きな時勢の変化の中でも一貫して継承され、現在では宮崎国際大学、宮崎学園短期大学、宮崎学園高等学校、宮崎学園中学校、宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園、清武みどり幼稚園の６つの教育機関を擁する総合学園として発展し、創立76年を迎えております。

そうした中、本年創立50周年を迎えた宮崎学園短期大学は、清武町の誘致を受け、儒学者安井息軒先生生誕の地に、宮崎県で最初の女子短期大学として昭和40年に開学しました。本学を巣立った卒業・修了生は、今では１万９千名を超え、保育、教育、福祉、ビジネス等の各分野において活躍し、特に幼児教育分野では、本学卒業生が県下の幼児教育分野の中核を担い、大きな役割を果たしております。

昨年度から宮崎学園では、建学の精神「礼節・勤労」に基づく「教育力・社会貢献力日本一の宮崎学園」を、また、今年度からは、地域の自治体と連携した取組や学園内の各機関が相互に連携して地域に貢献することを願い、「地方創生は宮崎学園から！」を掲げて努力を継続しております。

本年6月には、宮崎学園短期大学が、宮崎市と福祉や教育などの幅広い分野で相互協力するための包括連携協定を結び、更なる一歩を踏み出しました。

これからも、地域から信頼され、社会の発展に寄与する短期大学として、学校法人宮崎学園一体となって教育の質向上に努めて参ります。

今後とも皆様方のご支援をよろしくお願い申し上げます。

宮崎学園短期大学
学長
宗和 太郎
Taro Sowa

本学は今年創立50周年を迎えました。この間、送り出した卒業生の数は1万９千名になろうとしています。その卒業生たちの活躍が社会の本学教育への信頼を築いています。

本学の立つ「忍ヶ丘」は、安井息軒の「今は音を忍ヶ岡のほととぎす　いつか雲井のよそに名乗らむ」の歌に由来します。本学は昭和40年に清武町から土地を提供され、誘致を受けて誕生しました。この地は昭和31年９月まで清武小学校が在った場所であり、更にその前身は、今からちょうど140年前の明治８年、創立された中野小学校です。その際、息軒先生ゆかりの明教堂を、現在明教庵のある大楠の下に移築したと記録されています。明教堂が創立されたのは文政10年（1827年）ですから、学問の伝統は190年になろうとしています。

本学の歴史が50年、更にその前身を辿ると140年、190年の教育の伝統を受け継ぎ、今、本学の学生がここで切磋琢磨していることに誇りを感ぜずにはいられません。

本学の校歌には「集ひきてけふこそ学べ　若きわれらの夢ははるけし」「人らしき人にあるべく　若きわれらの道はけはしき」「よき友に会ひて語らん　若きわれらの花は友垣」とあります。

本学の学生が、「礼節・勤労」の建学の精神のもとに更に新しい歴史を築いていくことを確信しています。私達教職員一同、そのために努力を惜しみません。

宮崎県知事
河野 俊嗣
Shunji Kouno

宮崎学園短期大学が創立50周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

貴学は、学校法人宮崎学園の建学精神である「礼節・勤労」を基本的な教育理念とし、昭和40年に宮崎女子短期大学として創立されました。この間、幼児教育、福祉、医療等の分野に多くの優れた即戦力となる人材を養成し、これまでに１万８千人を超える卒業生を地域に送り出してこられました。

こうして創立50周年を迎えられましたのも、創立以来の貴学の発展に尽くしてこられた関係者の皆様方のたゆみない御努力の賜であり、深く敬意を表する次第であります。

近年、我が国は、本格的な人口減少社会の到来をはじめ、高齢化の進展、国際的な競争の激化など、様々な課題に直面しており、その先行きを見通すことは非常に難しくなってきております。

このような中、本県では今年、宮崎県総合計画（未来みやざき創造プラン）を改定し、引き続き未来を築く新しい「ゆたかさ」への挑戦を基本目標として、人づくり、くらしづくり、産業づくりに取り組んでまいります。

そのような社会において、地域を支えるのは「人」であります。地域間の人と人とを繋ぎ、郷土への理解を深め、伝統文化・スポーツなどを通して地域の魅力を再発見することにより、地域への誇りや愛着を育むことのできる地域社会の構築が大切であると考えます。

その実現のためにも、これからの少子・高齢化を支える人材の育成・確保は、本県にとって重要な課題であり、施策の推進に当たっては貴学との連携が必要でありますので、なお一層の御協力、御支援をお願い申し上げます。

結びに、50周年という記念すべき節目を迎えられ、今後、更に、地域に貢献する質の高い「学びの場」の提供等に御尽力いただき、これからも即戦力となる地域に根ざした人材の育成の場として、なお、一層の発展を遂げられますとともに、関係者の皆様方のますますの御健勝と御活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

宮崎市長
戸敷 正
Tadashi Tojiki

宮崎学園短期大学が、創立50周年という節目の年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。また、宗和学長をはじめ、関係者の皆様のこれまでのご尽力に深く敬意を表します。

宮崎学園短期大学は、昭和40年に宮崎女子短期大学として設立され、平成20年の男女共学により、現在の宮崎学園短期大学と改称されましたが、大学創設以来、建学の精神である「礼節・勤労」のもと、長年にわたり地域に密着した職業人の育成に力を注いでこられました。

今日、東京への一極集中が進み、地方の人口減少に歯止めがきかない状況の中、このような教育目標を掲げられ、地域社会を担う人材の育成・輩出に取り組んでこられたことは、誠に意義深いものがあります。

現在、国と地方を挙げて、地方創生に向けた取り組みが進められていますが、進学や就職を契機として、若者の宮崎からの流出が顕著になる中、いかにして流出を食い止め、宮崎に人の流れをつくっていくかが重要になります。

このような中、宮崎学園短期大学と本市は、市域の発展に寄与することを目的に、本年６月に包括的連携協定を締結し、それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力していくことといたしました。

このことは、官民が一体となった地方創生の取組の一つであり、大変心強く感じておりますし、大いに期待しているところでございます。今後とも市政各般にわたり、ご支援、ご協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

最後に、宮崎学園短期大学が、この栄えある創立50周年を契機に、ますます発展されることをご祈念申し上げ、お祝いのことばとさせていただきます。

宮崎学園短期大学同窓会
しのぶ会 会長
山本 千鶴子
Chizuko Yamamoto

私にとって慣れ親しんできた宮崎女子短期大学が、2008年に新たに宮崎学園短期大学として幕が揚げられ、早いもので7年の月日が流れました。今年50周年を迎えられました事に、心より御慶び申し上げます。「光陰矢のごとし」と申しますが、振り返ってみますと、昭和40年４月15日に開学し、半世紀という歳月が流れ、1万９千余名の卒業・修了生を、宮崎県内外に送り出されました。その間、常に社会に貢献できる人づくりとしての、道標を示され「礼節と勤労」の精神を掲げ、歩んでこられた半世紀が、脈々と引き継がれ、今後50年を見据えて、さらに日本一の学園に、発展されますよう、第一期生として、「宮崎学園短期大学は永遠なれ」と心よりお祈り申しあげ、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

宮崎学園短期大学後援会
会長
原田 祐三子
Yumiko Harada

建学の精神「礼節・勤労」で優れた人材をここ清武の忍ケ丘から世に送り出してきた宮崎学園短期大学もおかげさまで、今年で創立50周年を迎えます。清武町出身の江戸時代の儒学者安井息軒は私塾「三計塾」を江戸に開き「一日の計は朝にあり。一年の計は春にあり。一生の計は少壮の時にあり。」の有名な言葉を残しました。本学の「礼節」の学びの場「明教庵」は息軒が教育に当たったゆかりの地に立てられています。

ところで儒学とは儒教を自らの行為規範にして学ぶことであり、儒教は中国の紀元前五世紀の思想家孔子を始祖とする思考・思想体系です。儒教では人間の尊ぶべき徳性を仁・義・礼・智・信の「五常」としています。礼節の「礼」は人を思いやる「仁」を具体的な行動として表したものです。

安井息軒が活躍した幕末は全国各地に私塾が誕生した時代で、それは欧米諸国の外圧が差し迫り、危機意識もあって各地で学ぶ機運が高まった時代でありました。「何事も最初が肝心である」という意味で「三計塾」でも二千人を超える人材を輩出しました。また息軒は「百里を行く者は九十を半ばとする」を縮めた「半九」で塾生達を諭しました。気を抜かず最後までやり遂げることが大事であると。

また三計に似た言葉に「初心忘るべからず」があります。これは室町時代に能を大成させた世阿弥の言葉です。「最初の時の新鮮で謙虚な気持ちや志を忘れてはいけない」ではありません。若い頃の未熟な芸や自分のみっともなさ、苦労を忘れなければさらに精進できるという意味です。

そして世阿弥は「時々の初心忘るべからず。老後の初心忘るべからず」と言っています。常に向上心を持つことで様々な試練を乗り越え「道」を究めることが出来るのです。

創立50周年を迎えた宮崎学園短期大学ではありますが、「初心忘るべからず」で、今一度建学の精神「礼節・勤労」に立ち返り、思いやりをもち気を抜かず最後までやり遂げ、「学道」を究めて発展し続けるよう保護者としても微力ではありますが誠心誠意、全力で応援させて頂きます。

歴代理事長

初代理事長
大坪 資秀

第２代理事長
大坪 久泰

歴代学長

初代学長
綾 哲一

第２代学長
野口 逸三郎

第３代学長
小島 正秋

第４代学長
西原 典則

第５代学長
大坪 孝雄

第６代学長
山下 忍

宮崎学園短期大学の沿革

1939(昭和14年)	宮崎学園創立(創立者:大坪資秀)
1959(昭和34年)	宮崎学園創立20周年
1965(昭和40年)	宮崎女子短期大学創立(保育科80名) 初代学長　綾哲一教授就任 1960(昭和35年)設置のみどり幼稚園を宮崎女子短期大学附属みどり幼稚園と改称 図書館移築竣工
1966(昭和41年)	国文科設置(定員50名) 2号館竣工 学生寮竣工
1967(昭和42年)	初等教育科設置(定員50名) 附属清武みどり幼稚園設置 附属清武みどり幼稚園園舎竣工 本館竣工 第2学生寮竣工 1号館竣工
1968(昭和43年)	礼法室(明教庵)竣工
1969(昭和44年)	附属みどり幼稚園増築竣工
1970(昭和45年)	音楽科設置(定員50名) 3号館竣工 合奏室竣工
1971(昭和46年)	保育科定員増(定員100名)
1972(昭和47年)	体育館竣工
1974(昭和49年)	宮崎学園創立35周年
1975(昭和50年)	第2代学長　野口逸三郎教授就任
1976(昭和51年)	附属清武みどり幼稚園園舎竣工 学生寮竣工 附属清武みどり幼稚園2号園舎竣工

1978（昭和53年）	附属清武みどり幼稚園定員増（定員180名） 附属清武みどり幼稚園プール竣工 3号館嵩上げ竣工 1号館・2号館・別館渡廊下等解体 歩道橋竣工
1979（昭和54年）	宮崎学園創立40周年 本館・記念館竣工
1980（昭和55年）	附属みどり幼稚園送迎バス運行開始 保育科定員増（定員150名） 国文科定員増（定員75名）
1981（昭和56年）	第3代学長　小島正秋教授就任
1983（昭和58年）	附属清武みどり幼稚園園舎増築竣工 短期大学全館・寮冷暖房設備完成 運動場竣工
1984（昭和59年）	宮崎学園創立45周年 大坪記念ホール竣工
1985（昭和60年）	宮崎女子短期大学創立20周年 4号館竣工
1986（昭和61年）	英語科設置（定員100名） 初等教育科定員増（定員80名）
1987（昭和62年）	テニスコート竣工
1988（昭和63年）	創立者　大坪資秀理事長逝去 第2代　大坪久泰理事長就任 第4代学長　西原典則教授就任
1989（平成元年）	宮崎学園創立50周年
1990（平成2年）	コンピュータ演習室竣工 期限付（平成12年度まで）入学定員増 （国文科定員100名　英語科定員120名）
1994（平成6年）	宮崎学園図書館竣工 国際交流センター竣工 保育科定員減（定員120名） 初等教育科定員減（定員60名） 音楽科定員減（定員30名）

宮崎学園短期大学の沿革

1995（平成7年）	宮崎女子短期大学創立30周年 第5代学長　大坪孝雄教授就任
1997（平成9年）	第2コンピュータ演習室竣工 文部省短期大学視学委員の実地視察 専攻科棟竣工
1998（平成10年）	専攻科（福祉専攻）設置（定員30名） 保育科定員増（定員180名） 国文科定員減（定員85名） 初等教育科定員減（定員50名） 英語科定員減（定員85名）
1999（平成11年）	宮崎学園創立60周年
2000（平成12年）	期限付入学定員恒定化 　国文科（定員85名） 　英語科（定員85名） 2000年FD宣言
2001（平成13年）	専攻科（福祉専攻）定員増（定員50名）
2002（平成14年）	専攻科（音楽療法専攻）設置（定員10名）
2003（平成15年）	人間文化学科設置（定員120名） 英語科募集停止 文部科学省より「特色ある大学教育支援プログラム採択」 　採択テーマ「日本一の地方短大を目指す全学的FDの取組」
2004（平成16年）	国文科募集停止
2005（平成17年）	宮崎女子短期大学創立40周年 短期大学基準協会より認証評価適格認定
2006（平成18年）	忍ヶ丘寮ピアノ練習棟竣工 保育科定員増（定員210名） 人間文化学科定員減（定員90名） 専攻科（音楽療法専攻）2年課程設置（定員10名） 学位（短期大学士）施行
2007（平成19年）	第6代学長　山下忍教授就任

2008（平成20年）	男女共学により宮崎学園短期大学と改称 文部科学省より「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択 文部科学省より「質の高い大学教育推進プログラム」に採択
2009（平成21年）	宮崎学園創立70周年 明教庵改築 文部科学省より「就職支援推進プログラム」に採択
2010（平成22年）	専攻科（音楽療法専攻）2年課程廃止
2012（平成24年）	短期大学基準協会より認証評価適格認定
2014（平成26年）	初等教育科・音楽科・人間文化学科募集停止 現代ビジネス科設置（定員50名） 第3代　山下恵子理事長就任 忍ヶ丘寮閉鎖
2015（平成27年）	第7代学長　宗和太郎教授就任 専攻科（音楽療法専攻）募集停止 宮崎学園短期大学創立50周年

Student oath

誓いの言葉

宮崎学園短期大学が創立50周年を迎え、その節目の年に私たちが在学できますことを大変嬉しく思っています。

本学は県内でも長い歴史を誇っています。建学の精神である「礼節・勤労」のもと、多くの学生が自他の人間性を共に尊びつつ己を律する精神、そして様々なことに全力で取り組む精神を学び、身に付けてきました。これは、50年前から続く本学の伝統であるともいえます。

今年度からは、学科が保育科と現代ビジネス科の２学科になり、新体制へと変わりました。このことにより、更に充実した教育環境にいるのだと感じています。そして、新校舎への建て替えを行うことにより新たな宮崎学園短期大学へと生まれかわり、今以上に有意義な学生生活を送ることができるだろうと期待を膨らませています。

本学の良識と信頼に基づいた素晴らしい学風は、宮崎県内の教育や福祉領域へ優れた人材を生み出し、地域の信頼を高めて来ました。これは偏に先輩方のおかげであり大変感謝しています。この実績と伝統を私たちは受け継ぎ、次の世代に繋げていく気持ちを持ち続けたいと思います。

この考えを踏まえて、私たちは、本年の学友会テーマを“飛翔”としました。宮崎女子短期大学からの伝統や歴史を大切にし、50周年の大きな節目の年がすばらしい飛躍へと繋がり、宮崎学園短期大学の益々の発展に貢献していくことをここに誓います。

宮崎学園短期大学 学友会
会 長
入佐 ひかり
Hikari Irisa

Student
［在学生］

私が保育士を目指したきっかけは、当時通っていた保育園の先生のある行動からでした。

私が通っていた園ではマーチングに力を入れており、私は小太鼓のグループでした。周りの友達はどんどん上達しましたが、私は同じところで毎回つまずいてしまい、練習するのが本当に嫌だったのを覚えています。そんな私に対して先生は嫌な顔一つせず、隣でたたき方を教えてくれました。ときには悔しい思いをし、大声をあげて泣いたこともありましたが、優しく抱きしめて頭をなでてくれたことを今でも思い出すことがあります。そのときの私は、幼いなりにも先生のぬくもりや私を見ていてくれる安心感を味わったのだと思います。最初はただ漠然とした夢だったのですが、将来を考えるにつれて“人をこんな気持ちにさせる先生は本当に素敵だな、私もこんな人になりたい”と真剣に考えるようになりました。

高校の進路選択の時期では、一番に宮崎学園短期大学が思い浮かびました。私は学校の近くに住んでおり、幼いころから車で通るたびに校舎を眺めては両親に学校のことを聞いていました。保育の勉強がしたいと両親に話すと、快く応援してくれました。

入学後は、専門的な学習や実習を経験しました。とまどいや不安で涙を流し、辛いことも正直ありました。しかし、子どもたちが私に駆け寄ってくれたり、笑顔を向けてくれたりするたびに、嬉しさで泣きそうになりました。保育者が導くだけでなく、子どもたちから大切なものをもらえることも学びました。また、同じ夢を追う学友との出会いは、心強くもあり保育士になりたい気持ちをさらに強めるものとなりました。クラスや学友会の皆は私にとってかけがえのない存在です。この50周年という節目の年に宮崎学園短期大学で出会い学んだ私たちは、これから社会に出て多くのことを経験すると思います。10年、20年、その先の節目を経てもここで学んだことや出会いは忘れません。ここが私たちのスタートだという思いでこれからも夢を追い続けたいです。

保育科（2年）
杉山 夏季
Natsuki Sugiyama

Student
［在学生］

私の家は、大学から徒歩３分のところにあり、生まれてから20年間宮崎学園短期大学を身近に感じながら育ってきました。

農業高校出身の私は、生活文化科で「家庭」を専門とする分野を学んでいました。高校の授業の中には情報処理や秘書学等の科目もあり、そこでビジネス分野に興味を持つようになりました。そしてもっと専門的で実践的なビジネススキルを学びたいと思い、ずっと近くで見てきた宮崎学園短期大学への入学を決めました。

私が大学に入学して得たものは､「自ら物事に取り組むことの大切さ」と、「自信」です。

高校で資格取得の経験のある私は、入学後も資格取得に励みました。大学では高校と違い深い専門知識を学びながら限られた時間の中で自ら勉強し資格取得に臨むことはとても大変でした。私はこのような環境の違いを深刻に考えず、最初の試験では合格することができませんでした。その時初めて必ず受かるわけではないことを学びました。落ちた悔しさから次は絶対に受かりたいという気持ちで勉強に励みました。時間を見つけ練習問題を解き、友人とも励まし合いながらしっかりと検定に向き合いました。その結果、情報処理の上級や、初めて学んだ簿記、販売士の資格を取得でき、自らの「自信」に繋げることができました。

また大学では、検定の受験費用を学生自らアルバイトなどで賄っている友人も多く、私も両親に迷惑をかけてはいけないという思いを抱くようになりました。アルバイトのきっかけは検定試験代を稼ぐためでしたが、大学で学んだことを実践できる場であり、学外の人たちとの交流にも繋げることができました。ここでも自ら物事に取り組んでみて、初めて気づかされることが沢山あると知りました。この大学で、自ら取り組む大切さを学び自信を持てたことは、私にとって大きな財産です。

私は、生まれてずっと見てきたこの大学で、50周年という歴史的瞬間に携われることを誇りに思っています。卒業後は、大学で学んだ経験を活かし、宮崎学園短期大学の卒業生として、この地元宮崎に貢献できる社会人になりたいです。

現代ビジネス科 ビジネスコース（2年）
川越 捺芽
Natsume Kawagoe

Student
［在学生］

私が医療事務という職業に興味を持ったのは、かかりつけの病院の受付の方が、明るく素敵で、憧れたからです。そして、宮崎学園高等学校に在学時、本学で日本医師会認定の医療秘書資格を取得できることを知りました。オープンキャンパスにも２回参加し、学生と教員のアットホームな関係、学生のいきいきとした顔を見て、自分の短大生活を想像し、「私もこの場所で学びたい」と思ったのが、本学に入学を決めた理由です。

入学後は、90分授業に苦戦しつつ日々の講義で多くの事を学びました。簿記や情報処理などの商業科目は、高校での学びをもっとスキルアップしていきました。しかし、医療科目については、ゼロの知識からの始まりで学ぶことが多かったです。医療機関実習では、自分の知識の足りなさを痛感し、それからの勉学に気合いが入りました。医療事務・医療秘書がここまでの知識を必要だと知り驚きましたが、それだけ重要な仕事であることを改めて実感し嬉しかったです。

２年になってからは、短大生活の短い期間で出来るだけ多くの知識を身につけたい、ビジネスコースの学友と学びたいという思いから、必須の講義だけでなく選択の講義も積極的に受講しています。また、パン屋のアルバイトを高校生の時から続けてきました。毎朝、早朝６時からの仕事で、大学との両立は辛いです。でも、ここまで続けてこられた自分に、誇りと自信を持っています。

１年の時に「薬の知識」という講義に講師でいらしていた薬剤師の先生のお口添えで、この６月からは、調剤薬局事務の研修をさせていただいています。患者さんとの関わり方や処方箋の流れなど、これからももっと多くのことを学びたいと思っています。

本学はこの清武の地、忍ケ丘から多くの若者を送り出してきました。卒業生は建学の精神である「礼節・勤労」を尊び、地域社会に貢献する人材として巣立っていきます。私も卒業後は、礼節を持って誰からも信頼される社会人になります。

現代ビジネス科 医療事務・医療秘書コース（2年）
太田 清香
Sayaka Oota

Student
［在学生］

私が専攻科に進学しようと決めたのは、祖父が亡くなり一人暮らしになった祖母を支えるために、週１回祖母の家に通うようになった母の姿を見るようになったことがきっかけです。今後、万が一祖母が介護を必要とするようになったとき、祖母や母の助けになりたいと考え、専攻科への進学を決めました。

専攻科へ入学し、日々の授業や実習を通して、介護を身近に感じるようになり、考えるようになったことがあります。それは、介護が施設や専門職、当事者の間だけのことではなく、誰にとっても関係があるということです。現在、施設や在宅を問わず、介護をする人、介護を受ける人を、地域をあげて支えていこうという考え方が広まりつつあります。介護をすることは、子育てと同様、内に閉じこもりやすいという問題があります。外から何が起こっているのか分かりにくいため、介護者の負担が増加したり、高齢者虐待につながったりするのではないでしょうか。そこで、内側からのSOSを待つのではなく、地域の自治体や医療機関、ボランティアが連携して、外側から積極的に関わっていくことが大切だと私は考えます。介護予防のためのレクリエーションを地域の公民館で開催したり、徘徊の危険のある高齢者を地域住民の間で把握したりするなど、地域でできることはたくさんあるはずです。

このような考え方を広めるためにも、私たち介護を学んでいる学生がいます。地域と介護の現場を結んでいく役割として、私たち自身が介護の現場と関わり、家族や友人、様々な人へ情報を発信していく必要があります。そのために、高齢者の思いに触れたり、実際に介護の大変さを実感したりすることは、とても重要なことだと考えます。実際に私たちが感じたことを、介護に触れたことのない人に伝え、介護について知ろうとするきっかけになれれば良いと思います。

最後に、今年で50周年を迎える宮崎学園短期大学から、福祉や様々な分野で活躍し、地域社会に貢献できる人材が羽ばたいていけるよう願い、今在学している私たちがその前身となれるよう努力していきたいと思います。

専攻科 福祉専攻
黒木 あゆみ
Ayumi Kuroki

Student
［在学生］

この度は、創立50周年おめでとうございます！私は宮崎学園短期大学を卒業し、更に学びを深めるため専攻科音楽療法専攻に進学しました。進学してからは、1日が一瞬で終わるぐらい忙しくも充実した日々を送っています。

短大の頃の生活に比べると、勉強内容がレベルアップし、自分で考える場面がたくさん増え、一つ一つの事に時間がかかってしまうことが多くなりました。始めの頃は何を一番に頑張ればいいのか分からず、自分の中ではどれも曖昧な気持ちでだらだらとやっている自分がいました。そんな時、読んでいた漫画の一場面を思い出しました。その回では、「塾から早く帰る子とずっと残る子との違い」についての話でした。この子どもの違いは、切り替えの上手さと早さの違いを表していて、早く帰る子は、勉強と自分の趣味や遊ぶ時間をコントロールする事ができるという内容でした。その内容から自分の切り替えのあまさを感じさせられ、切り替えを早くしようと心がけました。ただ気持ちだけで思っていても無理なので、私の場合は大好きな音楽に触れて、気持ちを切り替える様にしました。ピアノをひいたり、歌を歌ったり、音楽を聴いたりと、音楽に触れるだけでとてもリフレッシュした気持ちで次の行動に移れる様になりました。また、自分のプライベートな時間もとることができる様になり、更に充実した日々を過ごせる様になりました。

今は、就職に向けての勉強も始まり忙しい日々が続きますが、ダラダラと行わずに音楽で気持ちを切り替えながら、頑張りたいです。

専攻科 音楽療法専攻
戸髙 由貴
Yuki Todaka

Graduate
［卒業生］

あのことも　このこともまた　切れぎれの記憶となりて　春の風吹く

短大を卒業して43年。もう遠い昔の事ではあるが、切れぎれながらキラキラと浮び上がってくることがある。還暦を過ぎた私にとって、明るい美しい思い出となっているのが嬉しい。

入学したての頃、できるだけ多くの単位を取るぞと鼻息も荒く履修届けを提出した時の意欲満々の私を、今いとおしく思い出す。

また、あまり思慮深くない性格で、出来そうにない事でも友人達の「あんたやってん」の声を受けて何でも経験と引き受けては、力不足、努力不足のため先生方や友人達に助けてもらい、泣いたり笑ったりした。出来なかったらとか、やれる訳がないという思いを頭の隅に押しやって飛び込んで行ったいろいろな活動。思い出す度に今でも顔から火が出そうになる事もあるが、それでも失ったものより得たものの方が数倍も多かった。本当に不出来な学生だった私だが、そんな学生をも優しく、温かく包んでくれる校風だったと思う。就活で失敗し落ち込んでいると、慰め励ましてくれた事務のおねえさんや売店のおばちゃん。試験の成績が悪いと、わざわざ呼びとめて叱ってくださった先生。自分の不甲斐のなさに、合わせる顔がないと逃げ廻っている私のことを、友人を通じて心配していると伝えてくださった先生。「あなた達の将来への道はほぼ決っている。しかし、卒業後に指導することになる子ども達の、将来の道は広く、長く幾つもの筋に分かれている。何者にでもなれる子ども達とふれ合うことのできる、保育という仕事のなんという素晴らしいことか」と使命感を奮い立たせてくださった先生。卒業後も多くのことで先生方に引き立てていただいたが、そのご恩も返せないまま、現在はのんびりと老いを楽しんでいる。あの頃を思い出すと、懐かしくありがたい気持で胸が満たされる。愛する母校が永遠でありますように。

保育科（昭和47年卒）
金川 まき子
Makiko Kinkawa

Graduate
［卒業生］

創立50周年おめでとうございます。

懐かしい短大時代を振り返ると、自分の人生の土台を作ったのは、あの３年間だったとつくづく思います。保育士や幼稚園教諭になりたいという夢を抱き、希望に満ち溢れていた友人たちとは違い、今一つ自分の進むべき道を決めきれず、周囲から勧められるまま、ただ何となく入学したのが、私の女短生活のスタートでした。

単位取得や実習に追われる予想以上に忙しい毎日。今、思うとそれだけ充実した学生生活を送れていたのでしょう。そして、その忙しい短大生活の中で、初めて、私は、自分自身と向き合い、将来何になりたいのか、しっかりと考えることができたのです。『障がいのある子ども達に携わる仕事に就きたい。』今まで漠然と抱いていた思いが、明確な目標へと変わったのは、熱く心に響く授業をしていただいた恩師や、夢の実現に向けて、努力を惜しまなかった友人たち、そして実習先で出会った子どもたちや職員の方々とのたくさんの出会いがあったからでした。ただ漫然と入学した私が、卒業する時には、この学校に入学して本当に良かったと心の底から思えたのです。また、保育科・専攻科での３年間で、生涯大切にしていきたい友人たちに出会えたのも短大での大きな収穫でした。職種も違えば、生活環境もバラバラな友人たちですが、今も途切れることなく続いてる友情には本当に感謝しています。

現在、私は県内の支援学校の実習教師として勤務し、十数年が経とうとしていますが、自分が描いていた夢が、現実になった時の喜びを、今も忘れることはありません。仕事をしている中で苦しく挫折しそうなときには、この初心を思い出し、乗り越えてきました。

我が母校、宮崎女子短期大学も時代の変化とともに、男女共学になり、宮崎学園短期大学と校名が変わりました。少し寂しい気持ちもありますが、私の過ごしたあの頃とは異なる新しい風が吹いていることでしょう。これからも、未来を担う学生たちの良き学舎として、益々、発展されることを心からお祈り申し上げます。

専攻科 福祉専攻（平成13年修了）
二宮 有希子
県立みなみのかぜ支援学校
Yukiko Ninomiya

Graduate
［卒業生］

創立50周年おめでとうございます。

私の幼少時代の夢は、保育士でした。しかし、高校生の時に祖父が脳梗塞で倒れ高齢者施設に入所し、このことがきっかけで介護福祉士にも関心を抱くようになりました。祖父は施設で亡くなり実習先で計報を聞いた私は泣きながら早退した事を鮮明に覚えています。その入所していた施設で介護福祉士の仕事を知り、宮崎学園短期大学には保育科と福祉専攻科の道があると思い進学を決めました。

入学後は、講義や実技・実習と様々な経験をさせていただきました。特に専攻科の実習では、高齢者の方々とうまくコミュニケーションが図れず「四苦八苦」した辛い思い出があります。しかし、高齢者の方の暖かい笑顔や、私を孫のように接してくれる高齢者の方に何か私に出来る事はないかと考え介護福祉士になることを決めました。

現在は、介護老人保健施設「春草苑」に勤務し11年目を迎えます。当初は、与えられた仕事をこなす事に必死でした。今は、利用者の一人一人に合った認知症ケアとは何かを考えられるようになり、充実した仕事をしています。私の担当する短歌・書道・民謡などのクラブ活動や排泄などのセルフケアも同僚と協力し合い楽しく取り組んでいます。昨年、認知症ケア専門士の資格を取得し様々な研修会にも参加するようになり「認知症高齢者」の尊厳を考えながら接することを心がけています。認知症ケアに携わり利用者の方のＡＤＬが少しでも改善された時や笑顔が出た時には仕事の遣り甲斐や喜びを感じます。

今後、更に高齢社会が進み、住み慣れた地域での生活支援が求められます。私は施設で働く介護福祉士として、認知症高齢者の方の「その人らしい」生活支援や在宅復帰が出来るように取り組んで行きたいと思います。

専攻科 福祉専攻（平成15年修了）
黒木 裕子
介護老人保健施設春草苑
Yuko Kurogi

Graduate
［卒業生］

宮崎女子短期大学（宮崎学園短期大学）国文科での２年間は、「学ぶということ」の難しさと、「学ぶ喜び」に満ちていました。

毎日図書館にこもり、演習の準備を重ねた日々は懐かしく、時々無性に、あの頃に戻りたくなります。調べれば調べるほど知らなったことが出てきて、本を片手に食事をしたこともありました。頭を抱えながら何枚も書いたレジュメで、「今度こそ先生に“よくぞここまで調べた”と言わせてみせる！」と息巻いては、毎回、完虜無きまでに先生方に突っ込まれ、自分の勉強不足を痛感しました。「本当にこれでいいのか。」と悩みながら答えを探した時間は苦しく、しかし本当に楽しいものでした。素晴らしい先生方や、お互い本気でぶつかり、ともに苦しみながら学んだ友との出会いは、私にとって一生の宝です。

中学校の教員になり、多くの生徒と出会い、何度も「学ぶ」ことの苦しさ、楽しさについて話してきました。その時必ず思い出すのは、短大での２年間なのです。今の私の「学び」に対する原点は、間違いなくあの２年間です。

宮崎学園短期大学が、今年創立50周年という節目を迎えられたと伺いました。心よりお祝い申し上げます。学校名や学科名など、時代とともに変わったこともあるでしょうが、私の大好きな母校であることには変わりありません。卒業生として、これからも胸を張って、「私は宮崎女子短期大学の国文科を卒業しました。」と言い続けます。そして、「学ぶということは、苦しくて、だからこそ楽しいんだよ」と、生徒に伝え続けます。

母校の今後のますますのご発展をお祈り申し上げます。本当に、おめでとうございます。私を鍛えてくださって、ありがとうございました。

国文科（平成２年卒）
足立 文枝
西米良村立西米良中学校
Fumie Adachi

Graduate
［卒業生］

宮崎学園短期大学創立50周年おめでとうございます。

私は、昭和50年３月に宮崎女子短期大学初等教育科を卒業いたしました。

当時は小学校の先生になる人も多かったと思います。しかし、宮崎県教員採用試験を受験して合格者数はごくわずかでした。

私は宮崎県教員採用試験に不合格、神奈川県採用試験に合格。友人は宮崎も神奈川も合格し「自分は神奈川に行く」と決め、採用された市町は違うが、神奈川県内それぞれの地で教職生活を始めることになりました。今思えば、友人とお互いに、うまくいかない児童の掌握の仕方や自らの未熟な指導を、週末のたびに「やけ食い反省会？」を繰り返したものでした。

神奈川県の教員でありながら、夏がくると宮崎に帰省し、採用試験を受験し、初任校は宮崎市立赤江小学校でした。宮崎の先生方は、教材分析はもとより、入念な教材研究をして授業に臨んでおられることに敬服しました。

私の５年間の神奈川での教職生活においては、児童理解と学級経営に重きをおいていたような気がします。子どもの扱いも研究授業の仕方も身に付いてきた頃、都会の生活にようやく慣れてきた頃、宮崎に帰ることになりました。当時の神奈川の先輩方に「物心が付いたら、帰るのかあ！」と言われたものでした。情熱をもって「教育」に専念したはずの教諭時代。管理職になるつもりで教師になったのではないが、教頭になり校長の思いを支え、校長になって教諭を支えようと努力した16年間の管理職時代でした。

昭和50年からこの３月末をもって40年間の教職生活を終わりました。

今の自分は、女子短期大学からスタートした40年間の教師生活に感謝したいと思っています。これからもその次世代を担う子ども達に胸を張って「教育」のできる人材育成をご期待申し上げますとともに、宮崎学園短期大学の発展をご祈念いたします。

初等教育科（昭和50年卒）
菊地 照代
元内海小学校校長
Teruyo Kikuchi

Graduate
［卒業生］

このたびは、創立50周年おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

私は、今から33年前に初等教育科を卒業し、現在は宮崎市内の小学校教諭として仕事をさせて頂いています。

卒業後かなり長い時間が経ちましたが、短大時代に学んだことは今の自分の原点でありとても懐かしく思い出されます。特に「礼節・勤労」の精神に基づいたカリキュラムは本学特有のものであり、教師を続けていく上での指針となっています。

成人式から帰宅すると、教員２次試験の合格通知が届いており、大喜びした日のことが昨日のことのように思い出されます。幸運にも20歳で夢であった教職の道に就くことができたのは、大学の恩師である先生方のご指導のお蔭と感謝しています。あれから早33年が経ち、今春、34回目の教え子たちとの出会いがありました。

長い教職生活の間に、制度や教育内容も新しくなり、教育界も随分様変わりしました。この年になっても日々勉強であり、戸惑うことの多い毎日です。

しかし、時代をこえて変わらないものもあります。それは、子どもたちと向き合う時の姿勢です。わが子のように愛情を持って一人一人を大切に思うことで、必ず心が通じ合うことを教え子たちに教えられています。多忙な毎日で、辛いことや自分を見失いそうになることもありますが、子どもたちの笑顔が心の支えとなり、教職を続けていくことへのパワーとなっています。子どもたちに教えられることも多々あり、自分を成長させてくれていると実感しています。素晴らしい職に就くことができたことを誇りに思っています。

初等教育科が宮崎国際大学教育学部として新しい出発をされたことを嬉しく思います。今後の本学の益々のご発展をお祈りします。

初等教育科（昭和57年卒）
佐藤 直美
宮崎市立住吉小学校
Naomi Sato

Graduate
［卒業生］

宮崎学園短期大学創立50周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、「音楽の力」それは目には見えないものですが、人々の心に感動を与え、そして記憶として、それぞれの心に刻まれるものです。その「音楽の力」「音楽の素晴らしさ」や一つの曲をみんなで創りあげる「喜びと感動」を、より多くの中学生に伝えたい、そのような思いをもち、教職に就いて早いもので30数年が過ぎました。

私自身、宮崎女子高校、宮崎女子短期大学と音楽の道に進みその素晴らしさを堪能しました。また、短期大学在学中は専門教科のみならず一般教科、そして教職教養と、先生方の懇切丁寧なご指導のもと多くのことを学び今の職に就くことができました。

実際に学校現場は日々忙しく、専門教科だけではなく他教科の授業や生徒指導等に追われています。しかし、心も体も成長著しい生徒達と向き合い、指導する上での基本は短期大学時代に学んだ「礼節・勤労」の建学の精神です。人が人として生きる上で、人間関係を築く基本となり、社会に出た時に最も大切なものは、「礼節・勤労」であることを日々実感しています。

音楽の授業時数が減る中、行事での大きな役割を担っている音楽。そして、社会の変化に伴い豊かな心を育むためにも、「音楽」の担う役割は、大きいと感じています。そのような中で常に分かりやすい授業を実践し、日々成長し続ける生徒達の可能性を引き出しながら、生徒と共にこれからも学び続けたいと思っています。

最後になりますが、これからも建学の精神のもと、益々発展されますことをお祈り申し上げます。

音楽科 ピアノコース（昭和57年卒）
森 美哉子
新富町立新田小・中学校
Miyako Mori

Graduate
［卒業生］

創立50周年、心よりお喜び申し上げます。15年程前、“音楽療法士として働くスーパーレディーになるんだ！ ”と将来を夢見て入学した日を懐かしく思います。音楽の道を志すのが遅かった私にとって、音楽科の授業は専門的で興味深く、そして学ぶことが楽しい毎日でした。そんな音楽科時代の友人と、先日集まる機会がありました。久しぶりに会ったはずなのに、そんな時間の経過を感じさせないような不思議な感覚で話がつきませんでした。音楽療法士、リトミック講師、楽器店勤務、ピアノレスナーに演奏家、福祉関係、そして２児３児の母など様々な友人たちでした。学生時代からそれぞれに夢を持ち輝いていた友人たちが、社会でさらに輝いている姿を見聞きして、なぜか自分のことのように誇らしく嬉しく思えました。こんな素敵な友と出会えたのも短大へ行ったからこそです。短大で学び“こんな先生になりたい”“あんな風に演奏できるようになりたい”“こんな素敵な人になりたい”と、思える先生や友人にたくさん出会えた私は本当に幸せです。

ずっと人に憧れて前に進んできた私ですが、つい先日「ハッ！」と驚かされることがありました。講師をさせていただいている高校の生徒さんが授業の感想に「馬籠先生は優しくて、ピアノも歌も上手くて、私の憧れの先生です」と書いていたのです。気づけば自分が人に憧れられる対象になっていたのです。嬉しい気持ちと責任を感じました。

私にとってかけがえのない出会いとなった短大の先生方や友人たちのように、私も微力ながら人に希望や幸せを分けられるようになれたらと思いました。一生懸命仕事をし、母としても妻としても生きていけたらいいなと思います。それが今の私にとって“憧れのスーパーレディー ”です。

音楽科 音楽療法コース（平成13年卒）
馬籠 奈津子
宮崎学園短期大学非常勤講師
Natsuko Magome

Graduate
［卒業生］

宮崎学園短期大学創立50周年おめでとうございます。

私は現在、知的障害者総合福祉施設 向陽の里に音楽療法士として勤務し、利用者の方々と向き合いながら、日々音楽療法の臨床に携わっています。利用者の方々と音楽をすることは毎日とても楽しく、施設内の音楽室では明るい声と笑顔が絶えません。その一方で、重度の障害を持つ利用者の方が音楽を「楽しい」と感じられるためには、どのように関わればよいか？音や音楽を有効に使ってアプローチするには？と日々、音楽療法士として自分自身に問い、利用者みなさんの姿に答えを探しながら、今も学び続ける日々です。

思い返せば高校生時代、「音楽療法が学びたい！」と思ったときに、当時音楽療法が学べる学校は九州には宮崎女子短期大学しかありませんでした。そこで出身地である福岡から一路、この宮崎の地で音楽療法を学び始めました。しかし音楽療法の世界は入学前に私が想像もしなかったほど奥が深く、２年目には学んでも学びきれない焦りと不安を感じていました。他大学へ編入を考え、進路に悩んでいた折に、専攻科に音楽療法専攻新設を知り、幸運にもそのまま１期生として、もう１年間学ぶことができました。短大在学の３年間、授業に励み、実習に明け暮れ、級友と励ましあい、そして先生方の熱心なご指導と支えをいただき、本当に密度の濃い日々を過ごす事ができました。卒業後、音楽療法士として働き始めましたが、学校を出ただけですぐに音楽療法が魔法のように出来るわけでもなく、苦しい日々が続きました。しかし、短大では技術や知識だけを学んだのではなく、学び続ける姿勢、支えあえる仲間など、沢山のものを得ていたことに社会に出てから気づくと、仕事が楽しくなっていきました。

卒業生にとって思い出の詰まった校舎も今では新しく生まれ変わる準備を整え、新たな歴史へと歩み始めようとしています。これからも沢山の学生のすばらしき学び舎として、更なる発展を心よりお祈りいたします。

専攻科 音楽療法専攻（平成15年修了）
長友 紀理子
知的障害者総合福祉施設 向陽の里
Kiriko Nagatomo

Graduate
［卒業生］

創立50周年おめでとうございます。

私が本学の前身であります宮崎女子短期大学を卒業してから、16年の歳月が経ちました。この16年の間に本当に色々な出来事があり、一度や二度と宮崎を離れましたが、結局は結婚出産を経て５年前に宮崎へ家族と共に戻って参りました。以来、図書館に何度かお邪魔したり、学園祭の時には、我が子を連れて保育科の子育てフェスティバルに参加させていただいたり。校門をくぐる度に懐かしい気持ちでいっぱいになり、学生時代のことを思い出します。

わたしは、義務教育の中学１年生で教科としての英語と出会い、大好きになりました。他言語を学ぶことがただただ楽しく、英語を勉強することだけは全く苦になりませんでした。高校３年生の時、慕っておりました英語担当の先生の薦めもあり、英語科へと進学いたしました。

短大での授業が始まると、英語コミュニケーション、リスニング、英語音声学、時事英語、英文学などなど、あらゆる角度から学ぶ英語漬けの日々。今振り返りますと、とても幸せな時間であったと思います。英英辞典で英語の意味を英語で知る勉強の仕方はとても新鮮で、今でもその辞典は大切にしています。

卒業時には事務職として就職しました。実際に社会人の一員となったときに、本学で受けた「礼法」また、「秘書実務」の授業がすぐに役に立ちました。今は新しくなってしまいましたが、明教庵での正座での授業、緑の木々に囲まれた畳の部屋に入ってくる風の心地よさを今でもよく覚えています。

いま現在は、１年間の海外生活を経て、後に児童英語講師として英語学校や小学校で働いた経験を生かし、昨年英語教室を始めました。育児と平行してどちらも大切な私の仕事です。教室のある仕事場へ向かう通り道には、安井息軒先生の銅像が立っています。心の中で「レッスン、行ってきます！」と呟き、会釈をすると気が引き締まる日々です。

末筆になりましたが、創立50周年、おめでとうございます。地元宮崎に戻りますと、あちこちで短大の卒業生の先輩方や後輩のみなさんにお会いする機会があり、「私も女短よ！」と声が大きくなる自分がいます。これからもたくさんの卒業生が宮崎で、日本全国でまたは海外で活躍されるのでしょうね。益々の貴学のご発展をお祈りいたします。そしてこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

英語科（平成10年卒）
パッソス 裕子
Yuko Passos

Graduate
［卒業生］

2年前の4月に入学式で初めて宮崎学園短期大学の門をくぐりました。人見知りな性格の私は友達ができるか不安でいっぱいの中、教室に行きました。文化ビジネスコースは私を含めて10名いない少人数で最初はとても驚きました。しかし、少人数だったからこそ、全員と仲良くなれたと思います。

学生生活の中で最も印象に残っていることは就職活動です。2年生になる前から準備を始め、興味のある企業があれば土日は毎週のように説明会に参加しました。数多くの採用試験を受験し、何度も不合格の通知を頂きました。私は自己PRを見直し、今まで経験してきたことを思い出しながら面接に臨みました。色々努力をした甲斐もあり、宮崎太陽銀行で現在、働いています。最初は慣れない環境に戸惑うことも多かったのですが、日々成長できるこの環境にいられることに感謝しています。宮崎学園短期大学に入学したからこそ今の私がいると考えた時に、この学校を選んで良かったと心から思えます。

50周年という長い歴史の中、2年間を宮崎学園短期大学で過ごせたことが何よりも私の宝物ですし、かけがえのない友達と信頼できる先生方に出会えましたので、私の最後の学生生活が宮崎学園短期大学で良かったです。

今後の宮崎学園短期大学の更なる発展と、これから社会に羽ばたく卒業生たちの活躍を祈念いたします。

人間文化学科 文化ビジネスコース（平成27年卒）
藤本 明日香
宮崎太陽銀行
Asuka Fujimoto

Graduate
［卒業生］

創立50周年おめでとうございます。伝統ある短大を卒業したことを誇りに思います。

私が当時の宮崎女子短期大学を卒業したのは平成20年のことです。卒業したのがついこの間のように感じられます。私は人間文化学科医療秘書コースを卒業しました。第一期生だったということもあり、９名という少人数のクラスでした。入学したばかりの頃は、初めての親元を離れての一人暮らしや慣れない授業などで、泣いて「帰りたい」と母親に電話していたのを思い出します。しかし、９名だったことから、みんな仲よくどんな時も協力し、悩みを相談できたりする仲間に出会え、とても楽しい短大生活を送ることができました。私は短大で、医療の勉強などもたくさんしましたが、その中でも一番残っているのは礼節の授業です。正直、当時は、なぜこの授業があるのだろうと思っていました。しかし、短大を卒業してすぐ、今現在もお世話になっている職場に就職しましたが、礼節の授業はとても大切だったと感じています。チームワークが大切な医療現場なので、言葉遣いやマナー、コミュニケーションなど学べたことに感謝しています。現在私には子供が２人います。どんな場面でも大切になってくることだと思うので、子供達にも伝えていきたいと思います。これからも短大時代に学んだことを忘れず、職場でも家庭でも頑張っていこうと思います。これからも、宮崎学園短期大学がますます発展されることを心よりお祈りしております。

人間文化学科 医療秘書コース（平成20年卒）
河野 あゆみ
古賀総合病院
Ayumi Kawano

宮崎学園短期大学 こども音楽教育センター

「宮崎学園短期大学 こども音楽教育センター」は、平成３年に「母と子の音楽教室」として出発しました。平成11年には「宮崎女子短期大学 音楽療法教室」、平成19年には「宮崎女子短期大学 こども音楽教育センター」、男女共学になった平成20年から現在の名称に変更して現在に至っています。現在90名以上の地域の方々が通って来られますが、対象は０歳から成人までと幅広く、障がい児の個別・グループ音楽療法、未就学児の音楽遊び、様々な楽器によるアンサンブルコース、ピアノ・ドラム、その他の楽器による個人レッスンなど様々な活動を行っています。本センターの特徴は、音や音楽を多感覚に用いて人の発達を促している点です。これらの取り組みは、本学保育科の授業の中で、「保育士」や「幼稚園教諭」、また、「音楽療法士（２種）」や「こども音楽療育士」の養成にも活かされています。

子育て支援セミナー・保育フェスティバル

～遊びによる地域の子どもたちとの交流～

宮崎学園短期大学保育科では長年、保育現場に伺ってボランティアをさせていただくなど、子どもたちとの交流を多く行っていますが、平成20年度からは「保育フェスティバル」、平成21年度からは「子育て支援セミナー」が開催され、学生と教員が実践する遊びによる地域の子どもたちとの交流活動が始まり今に至っています。

「保育フェスティバル」を実施することで、２年生が実習や授業で学んだことを活かして子どもたちとの対応をさらに広く学ぶこと、１年生が２年生と共に活動することで、子どもの遊びの進め方や子どもの対応について学ぶきっかけを作ること、地域の子どもたちや保護者の方々と交流することで、多様なコミュニケーションの取り方を学ぶことといった様々な学生の成長を期待しています。また、「子育て支援セミナー」を実施することで、本学教員の専門性を活かしながら子どもたちや保護者の方々との交流を深め、地域への貢献につながっていくことを期待しています。

ニューライフ・アカデミー

宮崎学園短期大学の公開講座は、「女性の多様化・高度化する学習要求に応える」ために宮崎県教育委員会から委託された「ニューライフ女性アカデミー　～みやざき女性講座～」に始まります。この講座は平成５年から平成15年まで続き、その後地域の方々の強い要望にお応えして、男女を問わず受講できる本学独自の公開講座が始まりました。当初は「宮崎女子短期大学オープンカレッジ」という名称でしたが、その後、「宮崎学園短期大学市民講座　ニューライフ・アカデミー」と名称変更、現在に至っています。

名称は変わりましたが、そこにはいつも、本学教員の専門を生かした講義と熱心な受講生の姿があります。「それぞれの先生方のお話の中に私の心を呼びさますものがあった」「この講座から学ぶことを知り、又楽しむ人生を教えていただいた」等の感想をいただくと、喜びとともに本学の大きな責任を感じます。次の講座を楽しみにしていますという声に励まされながら、これからも地域の方々が専門的な内容を楽しく学べる場でありたいと思います。

■平成５年度・宮崎女子短期大学
■ニューライフ女性アカデミー
■みやざき女性講座

宮崎県教育委員会では、女性の多様化・高度化する学習要求に応えるため、地元大学の協力を得て女性が楽しく学習できる「ニューライフ女性アカデミー～みやざき女性講座～」を開講します。すばらしい講師の先生方と一緒に学生気分で学習してみませんか。

●学習コース
国際視野学習コース（宮崎女子短期大学）
●募集人員　５０人
●受講対象者　県内に在住する女性で専門的学習を希望する者
●受講料　無料（ただし、交通費、教材費などは参加者の負担です）

●申込期限　　平成５年７月１４日（水）
●申込先　〒889-16
宮崎郡清武町大字加納丙1415（☎0985-85-0146）
宮崎女子短期大学公開講座係　宛
●申込方法　葉書で上記住所までお申し込み下さい。受講者決定の後、ご連絡いたします。
*応募者多数の場合は先着順になる時があります（お早めにお申し込みください）

保育研修会

平成21年に始まった保育研修会は、本学教員の専門性を生かし、保育の現場にいらっしゃる方々と共により良い保育を探っていくものです。学生も係として参加し、学び、専門性向上の意識を高めています。

これまで保育音楽や製作、身体表現、心理などを専門とする教員が中心となり、さまざまなプログラムが用意されました。「子どもの音楽あそび」の体験を通して保育の中での音や音楽の使い方を学んだり、さまざまな色の組み合わせでイメージが変化することを実感したりと、毎回盛りだくさんの内容です。エッグキャンドルやパネルシアター等の製作、風船を使ったぶたは大好評でした。充実した内容は、保育所や幼稚園、今後増えて行く認定こども園で実践できるものして先生方にも喜ばれています。

小冊子“忍ヶ丘”から宮崎学園短期大学の足跡を辿る

ここでは、本学創立50周年を迎えた本学の足跡を、“忍ヶ丘”バックナンバーから辿ります。小冊子“忍ヶ丘”は本学の創立20周年を期に創刊したもの。初期のナンバーには、創立時の社会情勢などを振り返りつつ将来を展望する様々な寄稿が掲載されています。この中から、本学創生期の学生たちと忍ヶ丘、そこから望む清武町の風景などを思い描いて頂けるような文章を抜粋し、本学を支えて下さった教職員や地域の方々への感謝を表したいと思います。まずは、“忍ヶ丘”No.2（1985年）。大坪資秀理事長による「創立20周年に与う」より抜粋。

みどり幼稚園を創立した昭和35年頃から昭和40年頃にかけて、本県には（中略）幼稚園教諭や保育所保母の有資格者は県下職員のうち3分の2どまり、他は高校卒業生の無資格者。中でも幼稚園教諭の有資格者でも、小学校教諭の免許切り替えの者が多く、幼稚園教諭と保育所保母の有資格者は不足勝ちで、心ある人々に心配されていた。（中略）

顧みて昭和40年4月の本学開学の頃に思いをいたすと、学校敷地を物色の頃、市内広原や宮崎神宮外苑などを候補地にあげて交渉の途中、清武町から誘致の申し入れがあり、当時の清武町長小城祐平殿や町議会議長日高正先生をはじめ、歴代の町長佐伯一男殿、落合兼俊殿や議長の皆様の御厚意をいつも深く肝に銘じ、感謝の心を忘れないのである。

創立当時の校舎は旧宮崎市役所庁舎を移築し、校舎に改造して作られたもので、認可申請の当時、現地審査に見えた大学設置審議会委員の木之下先生に条件をつけられ、今後は鉄筋校舎に改めるよう固い約束の下に認可された。校舎は増築毎に鉄筋校舎に変わり、さらに全館冷暖房に変わったことは私の願いが叶ったことであり、私は学生や先生方によい環境づくりをして、勉学・研究に役立つことの願いをこめて無理を通してきた（中略）。

宮崎学園の45年に亘る経営に当たって、いつも心に念じてきたことは「信用」と「感謝」である。

創立当時の舎屋

大坪資秀理事長は、校地の無償提供を頂いた清武町のために「清武みどり幼稚園」を創設したこと、そして、町議会議長日高正先生から命名頂いた礼法教室「明教庵」の表札と「美在心」の掛け軸に触れて文章をまとめています。

次は、同“忍ヶ丘”No.2（1985年）、小島正秋学長による「宮崎女子短期大学の未来像について」からの抜粋です。

昭和39年は宮崎学園創立25周年記念の年。（中略）同年文部省が発表した大学白書によれば、戦後第1次ベビーブームの子供らが翌年から大量に大学に

進学してくるので入学定員を10万ふやし、うち3万を短大でうけもつようにのべている。（中略）当時は高度経済成長時代に突入しており、大学進学率も次第に上昇、さらに働く婦人の数も増加した。従って保育所の開設も多くなり、保母資格のある人の需要が逼迫し県自体でも保母養成しなければならない程であった。当時宮崎県には女子短大もなく、県内の女子高校卒業生はすべて県外の大学や短大にゆかねばならなかった。（中略）

以上のような内外の社会状勢と理事長先生の長年の念願の一つであった高校・大学一貫教育を実現したいということもあり、学園創立25周年記念事業の一端として宮崎女子短期大学を設置し、まず社会的要望の高い保育科を設ける計画が、39年1月の法人理事会で承認され、直ちに文部省に申請、翌40年1月25日に認可、同年4月15日に開学式と入学式を行った。

短期大学の近未来像に思いを馳せつつ、小島先生は、産業構造の細分化、減速経済成長期に入ったこと、高度情報化、国際化、高学歴化、世界一の高齢化などについて言及し、『地方にある中規模の女子短大が魅力ある大学として将来とも発展するためには、どうすればよいのか、早急に模索し計画をたてることが必要であろう。』と記しています。

次の“忍ヶ丘”No.3（1986年）では、当時の宮崎女子高校校長　大坪孝雄先生が、「短大の創立と私」という題で寄稿されています。文部省に「大学設置認可申請書」等を提出した頃の記載から、創立前の作業の苦労、そして協力者への感謝の思いが偲ばれます。

文部省に「大学設置認可申請書」「寄付行為変更認可申請書」を提出することは、（中略）創立時は保育科でスタートしたのであるから、厚生大臣から「保母養成学校」としての指定を受ける必要もあった。このため、厚生省の指導をたびたび受けながら、県知事の副申を添えて書類を提出する仕事も重なった。さらに、幼稚園教諭の免許状が取得できるよう、教員養成に関する書類も提出するので、目の廻るような忙しさである。勿論短大事務局はまだ無いから、すべての業務を高校事務部の数人が手伝って下さった。協力を得たのは、当時の高校事務部長富永吉実先生、庶務係長大野広光先生、小牧誠子先生の各位である。人事は主に綾先生に担当して頂き、図書関係は当時高校教務の大坪昭裕先生と、今は亡き永江紀一郎先生に尽力して頂いた。このように添付書類は私が原稿を作り、小牧先生がレイアウトして手早くタイプして印刷してくださった。綾先生は新任の先生に就任の交渉をし、続いて印を頂くなど、ご老齢にもかかわらず、よく自転車で走り廻って下さった。（中略）私は夏から冬にかけ13回上京した。上京はすべて2等寝台である。大分駅で乗り換え、特急「富士」か「みずほ」で往復した。特急とはいえ、東京までの車中で過ごす時間はやはり長かった。

また、大坪孝雄先生は、町民の声に耳を傾けるようにと記しています。『女子大生の誇りと自信と、学生らしい振舞いをもって学業を修め、無事短大就学の目的を達成していただきたい。道路の歩行、バイクの運転、異性と自動車の相乗り等々、ほんの一部の学生の行動が、町民を心配させることがままある。』と。どの時代も変わらないものですね。

さらに、本学の伝説となっている大楠について。数百年前から本学の地に根を張り、西南の役を乗り越えてきた学園の大楠に枯れ枝が増え、衰えて行く姿を心配する文章も添えられています。『まだまだ大切に育てたら、船引大楠のように九百年も千年も、短大教育の発展を祝福してくれるにちがいない。』と。

明治5年(1872年)の学制公布を受け、清武村の中野小学校がスタート。江戸時代に安井息軒先生のお父様の安井滄州先生がお作りになった明教堂を校舎としたそうです。その後、明治8年に明教堂を廃止し、「槍（うつぎ）の内大楠の下」である現在の明教庵の地に中野小学校が移転。これがちょうど140年前。本学の開学40周年記念誌（2005年）にも掲載された座談会記録の中で、当時本学学長の大坪孝雄先生が明教庵そばの石碑について触れています。あの石碑は、大正4年（1915年）、今から100年前に当時の村長　荒武民三さんが中心になって建てられたもので、次のように大坪先生は記されています。

そんな昔からたくさんの子供が集まって来て（中略）教育を受けた。その頃は今のような立派な靴なんかありませんから、多分草鞋か裸足で来たと思うんですよ。それこそ「いつか雲井のよそに名乗らむ」と思って、みんな勉強したと思います。それでこの学校で全員が学ぶようにするために、当時の村長さんたちはお金を用意しなくてはならなかったので、大変だったんですね。そのときの村長さんが荒武民三さんです。

大楠の側に建つ石碑

忍ヶ丘の地には、このような先人たちの魂と、それを慈しむ人々の思いが宿っているのだと改めて感じます。

次は、小島正秋学長の言葉を、“忍ヶ丘”No.5（1988年）「小島学長に聞く」～短大の過去・現在と将来の課題～から一部抜粋します。小島先生は、本学を“大学らしい大学”にするため奔走されました。

いずれにしても、長い将来を見ると子供たちの数が減ることだけは確実だから、危機意識だけは忘れないことです。そして、とりあえずは地元の“受け皿”をがっちりつかむこと（中略）。学生数が大量に減るのは大都市。そうなると、大都市の有名校が地方の学生をかっさらおうとする。そこで、自衛

のためには宮崎になくてはならない魅力ある短大をつくっておかなければならない。（中略）先手を打たないと危ないという危機感は、辞めようとする現在も抱いています。

上記を踏まえ、小島正秋先生は、同窓会組織の充実や就職指導課の創設、そして教員の研究環境の整備等に着手され、英語科を増設。本学を1000人規模の短大に育て上げて下さいました。その他、同窓会の協力による大坪資秀理事長先生の銅像建立や、国道269号線加納小入り口バス停から本学正門までの通学路の整備拡幅陳情など、様々な取り組みをされました。

また、本学の将来像には常に危機感をお持ちで、カリキュラムを検討して改組転換を行うことや学生募集のための巡回訪問、公開講座などによる成人を対象にした地域貢献など、競争激化することを意識した構想を、この談話の中で語っています。

最後に、本学の男女共学への転換期2009年度“忍ヶ丘”（新装vol.1）からご紹介します。7年間本学の学長を務められた山下忍先生が『忍ヶ丘に、清澄なる鐘の音を響かせたい』というテーマの寄稿で、新生宮崎学園短期大学が初年度に成し得た3つの成果と明日への誓いを記しています。

一つは平成20年度において、400名近くの入学者の中24名の男子学生を迎えたこと。男子学生は早々と学校生活に溶け込み、春秋の忍ヶ丘祭で積極的に活動し、硬式テニス部の立ち上げ、全国合唱コンクールや吹奏楽県大会に出場するなど活躍を見せたことを喜んでおられます。二つ目は文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」と「質の高い大学教育推進プログラム」という二つのGPにおいて、同一年度ダブル採択という成果をあげたこと。『私たちは、わが身に謙虚であることを求めながら、一方爽やかな誇りのもとに日々を過ごしていきたいと思っている。』と記し、三つ目に本学合唱団の全国大会での銀賞受賞や吹奏楽部の県大会出場、本学の地域貢献イベントの成功等を挙げておられます。

そして、学校法人宮崎学園創立70周年記念事業に向け、これまでの「日本一の地方短大」を「日本一の短期大学」に改めると宣言。米国第44代大統領バラク・オバマ氏の就任演説に倣い、『大学の価値はその大小にあるのではなく、機能しているか否かにある、想像力が共通の目的と結び付き、必要性が勇気と交われば、本学が「日本一の短期大学になる」という目標の達成は、さして困難なる事業ではない。』と力強く述べておられました。

以上、“忍ケ丘”バックナンバーを手に、本学創立時から転換期にかけてご尽力された先生方の思いを振り返りました。紙面の都合上、抜粋文章には中略や若干の編集を加えておりますが、本学と地域の50年という長い歴史に思いを馳せるお手伝いとなれば幸いです。

体育祭入場行進

宮崎女子短期大学
入学案内

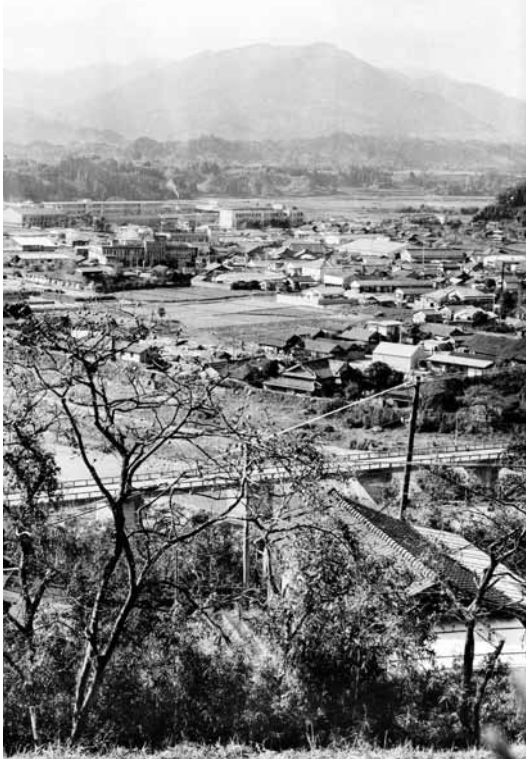
募集要項（開学時）

開学式

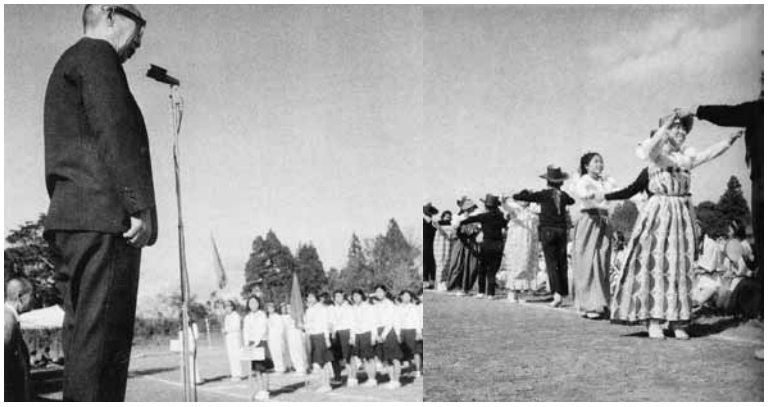
小児栄養実習

新聞部編集会議

全学キャンプ　キャンプファイヤー

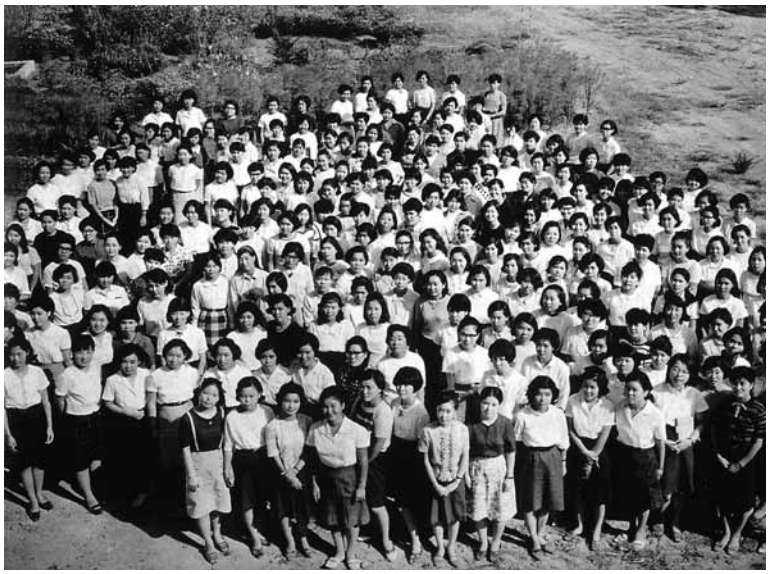


忍ヶ丘からのながめ



第3回体育祭

第2回文化祭



1968年の学生たち（全学生）

文化祭

体育祭

主なできごと

1965
- 日韓基本条約締結
- 朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞
- 富士山頂に気象レーダー完成
- スモッグ警報開始
- イリオモテヤマネコの発見

1960
- 大型旅客機事故相次ぐ
- 日本の総人口1億人突破
- 敬老の日、体育の日制定

1967
- ツィッギー来日、ミニスカート流行
- リカちゃん人形誕生
- 南アフリカで世界最初の心臓移植手術

1968
- 川端康成ノーベル文学賞受賞
- 日本初の心臓移植手術
- 小笠原諸島返還
- 霞が関ビル完成

1969
- 東名高速道路全線開通
- アポロ11号月面着陸
- 大学紛争　東大安田講堂陥落
- アニメ「サザエさん」放送開始
- 宇宙開発事業団発足

新入生歓迎遠足

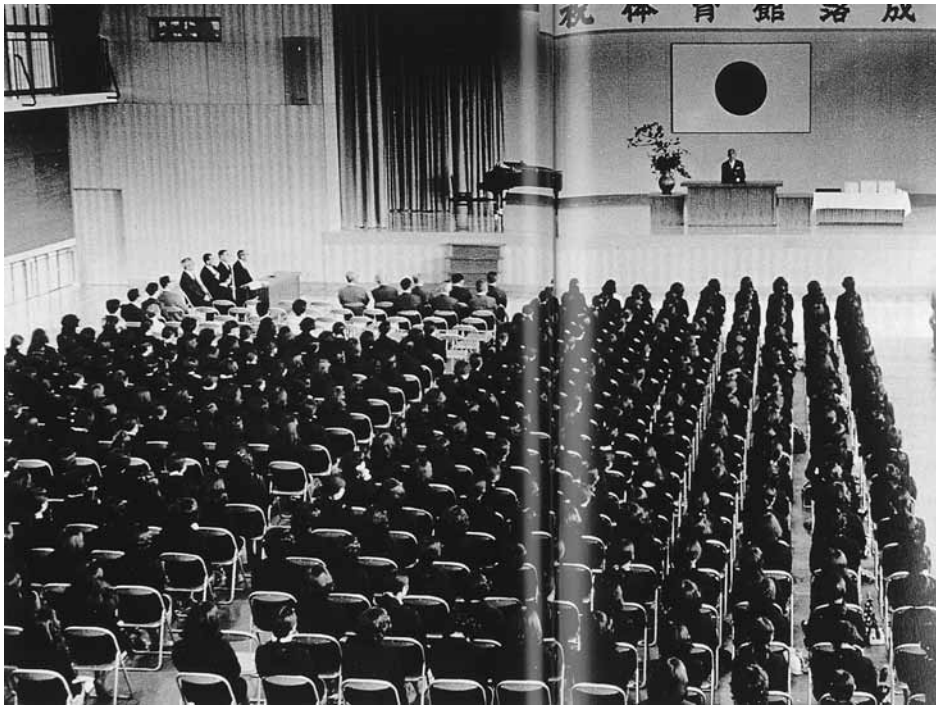
音楽科受講講習会

全学キャンプ　キャンプファイヤー

こどものくに　遠足

体育祭　優勝旗授与

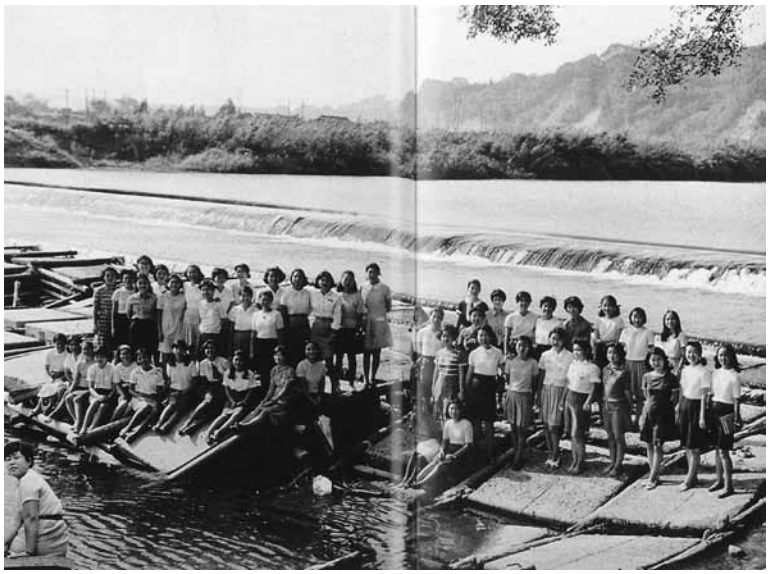
文化祭　お茶席


体育館落成記念式

体育祭　騎馬戦

体育祭　仮装

保育所保育実習



清武川　清流橋下

合唱部

主なできごと

1970
・歩行者天国実施
・よど号ハイジャック事件
・大阪万博
・国産人工衛星「おおすみ」打ち上げ

1971
・カップヌードル新発売
・沖縄返還協定調印
・環境庁発足
・NHK全番組をカラー化
・リモコン式TV登場

1972
・ウォーターゲート事件
・札幌冬季オリンピック
・ミュンヘンオリンピック
・元日本兵横井正ーグアム島から帰還
・あさま山荘事件
・日中国交樹立
・上野動物園にパンダ

1973
・円　変動相場制に移行
・江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞
・石油ショック

1974
・佐藤栄作ノーベル平和賞受賞
・元日本兵小野田寛朗
　フィリピンルバング島から帰還
・三菱重工ビル爆破事件
・ハローキティ誕生
・オイルショックで深夜放送中止

音楽科定期演奏会

安井息軒先生生誕地での国文科学生

授業風景（野田先生）

体育祭

旧本館をバックに

体育祭が終わって

文化祭：ダンスパーティ室前

体育祭

登学する清滝橋の学生たち

旧清武駅前

主なできごと

1975
・英国エリザベス女王夫妻来日
・三億円事件、時効成立
・新幹線、博多開業

1976
・モントリオールオリンピック開催
・鹿児島で五つ子誕生
・田中前首相逮捕

1977
・ニューヨーク大停電
・大学入試センターが発足
・国民栄誉賞創設　王貞治氏が第一回受賞者に

1978
・ドミニカ国がイギリスより独立
・新成田国際空港開港
・王選手800号ホームラン達成

1979
・マーガレット・サッチャー氏ヨーロッパ初の女性首相となる
・第5回先進国首脳会議（東京サミット開催）

新入生歓迎遠足

小児栄養実習

授業風景

体育祭

文化祭

合唱風景（斉藤先生）

音楽科

体育祭

体育祭：応援合戦

文化祭

警備員さんと一緒に

求人票を見る学生たち（内田先生）

主なできごと

1980
- モスクワオリンピック開催
- 大平首相が急死
- 2年連続日本一赤ヘル軍団

1981
- スペースシャトル・コロンビア打ち上げ成功
- ローマ法王来日
- 京大、福井謙一教授ノーベル化学賞を受賞

1982
- 英サッチャー首相が来日
- 15年ぶりに新硬貨が発行される。500円硬貨一億枚が市中に出回る
- ホテルニュージャパンで火災

1983
- ソ連軍機が大韓航空機を撃墜
- 三宅島・雄山が大爆発
- ロッキード事件丸紅ルート田中元首相に有罪判決

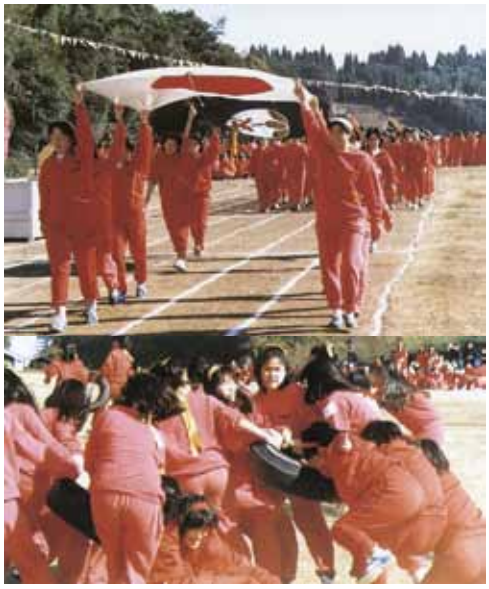
1984
- ロサンジェルス・オリンピック開催
- グリコ・森永事件

身障者スポーツ大会

宮崎県庁での出発式

競技場受付

雨で中止になった体育祭：応援合戦を体育館で披露



体育祭

文化祭：ファッションショー

文化祭

体育祭

授業風景（岩佐先生）

音楽科定期演奏会

体育祭：応援合戦

文化祭：ミスコン

体育祭

主なできごと

1985

- アメリカ　レーガン大統領選に圧勝
- 日本の人口1億2千万人突破
- ジャンボジェット機　群馬県山中に墜落

1986

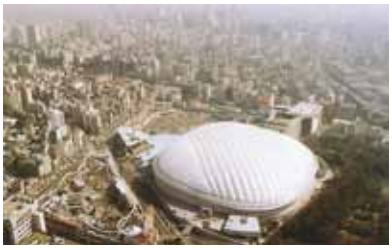
- チェルノブイリ原発事件
- 英国チャールズ皇太子・ダイアナ妃来日
- 伊豆半島　三原山の大噴火

1987

- ゴッホ「ひまわり」ロンドンでの競売で日本企業が高値で購入
- 日本人の平均寿命
  男性75.23歳、女性80.93歳
- 利根川進氏ノーベル医学生理学受賞

1988

- ソウルオリンピック開催
- 瀬戸大橋開通
- 東京ドーム完成



1989

- 無人惑星探査機ボイジャーよりの画像送信
- 昭和天皇崩御「平成」元年
- 消費税導入

ダンスチーム“ナッツ”

体育祭

文化祭

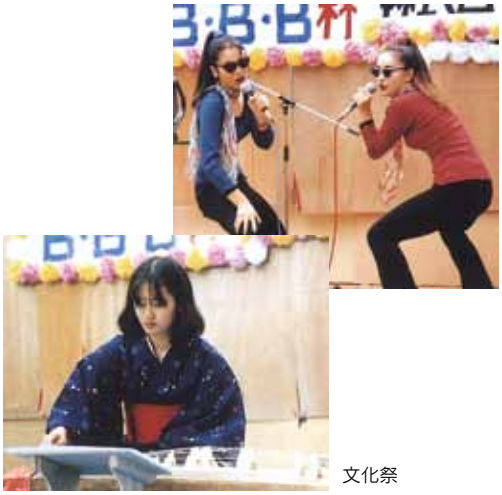
文化祭：ゆかた美人

体育祭

体育祭

文化祭

体育祭



文化祭

英語科授業風景

体育祭

文化祭（ステージ）

主なできごと

1990

- 新生ドイツの国名が「ドイツ連邦共和国」に決定
- 新テスト（大学入試センター）始まる
- 礼宮文仁親王・紀子様ご成婚

1991

- ミャンマー　アウンサン・スーチー女史　ノーベル平和賞受賞
- 東京都庁新庁舎落成
- 長崎　雲仙普賢岳大火砕流発生

1992

- スペースシャトル・エンデバーから日本人宇宙旅行士　毛利衛氏が授業を行った

- 満100歳以上の高齢者が4千人を突破
- 夏季オリンピックバルセロナ大会200m平泳ぎで岩崎恭子が金メダル

1993

- イスラエルとパレスチナ解放機構がホワイトハウスでパレスチナ暫定自治の原則に関する宣言に調停
- 皇太子様・雅子様ご成婚
- 鹿児島で記録的な豪雨

1994

- 日本人初の宇宙飛行士向井千秋さんスペースシャトル・コロンビアに乗船
- 松本サリン事件
- 大江健三郎氏、ノーベル文学賞受賞

音楽科授業風景

保育科クラスメート

忍ヶ丘祭

初等教育科　体育授業

忍ヶ丘祭

大坪孝雄学長

音楽科定期演奏会

忍ヶ丘祭

体育祭

昔ばなし研究会

国文科授業風景（山下忍先生）

忍ヶ丘祭

忍ヶ丘祭

体育祭

主なできごと

1995
・阪神大震災
・野茂英雄ドジャーズ入団

1996
・クリントン大統領再選
・アトランタオリンピック

1997
・香港が中国に返還

・日本大使公邸にペルー特殊部隊
・たまごっちが大流行

1998
・明石海峡大橋完成

・長野五輪

1999
・介護保険制度スタート
・地域振興券公布

保育科授業風景

英語科授業風景（リチャードベーカー先生）

忍ヶ丘祭

入学式

体育祭

保育科クラスメート

忍ヶ丘祭

忍ヶ丘祭

学食で昼食

国文科授業風景（大坪勝郎先生）

登学風景

英語科授業風景

初等教育科授業風景

主なできごと

2000
- 白川英樹筑波大名誉教授ら3名がノーベル化学賞授賞
- シドニーオリンピック開幕

2001
- 小泉内閣発足
- ニューヨークで同時多発テロ

- 巨人長嶋監督引退

2002
- 欧州単一通貨ユーロ流通開始
- 北朝鮮から拉致被害者5名帰国
- 日本人2名がノーベル賞授賞

2003
- 日本郵政公社発足
- 松井秀喜ヤンキース入団

- 米英軍バグダッドでイラク軍と交戦開始

2004
- アテネオリンピック開幕
- 1万、5,000円、1,000円の新紙幣発行
- 米ブッシュ大統領再選

合唱風景（有川先生）

体育祭：綱引き

忍ヶ丘祭

忍ヶ丘祭

音楽科定期演奏会

体育祭

人間文化学科学生

忍ヶ丘祭

大坪久泰先生

山下忍先生

宗和太郎先生

入学式

主なできごと

2005
- 日本国際博覧会（愛知万博）大阪以来35年ぶり
- 東北楽天ゴールデンイーグルスがプロ野球参入
- プロ野球セパ交流戦開始
- JR福知山線脱線事故

2006
- トリノ5輪フィギュアスケートで荒川静香が金メダル
- WBCで世界一

2007
- 島根県の石見銀山が世界遺産登録される

2008
- 米国サブプライムローンに端を発した金融危機
- 中国四川省でM7.8の大地震発生
- イチローが日米通算3000安打達成

2009
- 「ハドソン川の奇跡」米国ハドソン川にUSエアバスが不時着し、乗員乗客全員が無事救助
- 若田光一が日本人宇宙人飛行士として、初めての国際宇宙ステーション長期滞在
- JR寝台特急「はやぶさ」と「富士」が廃止。ブルートレインが姿を消した

人間文化学科ビジネスコース パソコンルームでの授業（塚本先生）

忍ヶ丘祭

春の忍ヶ丘祭

保育科授業風景（齋藤先生）

茶道部

音楽科定期演奏会

主なできごと

2010

- 宮崎県、口蹄疫発生。県内に拡大
- アップル社、iPad日本で発売
- 根岸栄一氏、鈴木章氏がノーベル化学賞を受賞

2011

- 霧島山新燃岳が52年ぶり大噴火
- 3.11　東北地方でM9.0の大地震、津波被害
- 小笠原諸島、平泉が世界文化遺産に登録される

2012

- 東京スカイツリー開業
- 九州北部が記録的な豪雨に見舞われる
- 山中伸弥氏がノーベル生理学・医学賞受賞

2013

- 第92回全国高校サッカー選手権で、宮崎県の鵬翔高校が初優勝
- 厚生労働省研究班が、インターネット依存症にかかっている中高生を約51万8千人と推測
- IOC総会で、2020年の夏季オリンピック開催都市を東京と決定

2014

- 大阪氏阿倍野区に高さ300メートルの超高層複合ビルが全面開業
- 若田光一氏が国際宇宙ステーションの船長に就任　アジア人として初
- 消費税率が5%から8%に引き上げ
- WHOがエボラ出血熱について「国際的な公衆衛生上の緊急事態」と宣言
- 広島市北部の安佐北区などの住宅地が、局地的豪雨による大規模土砂災害を受ける
- 赤崎勇氏、天野浩氏、中村修二氏がノーベル物理学賞を受賞、パキスタンのマララ・ユスフザイ氏がノーベル平和賞を受賞。

私たち、親子孫三世代の卒業生です。

50年の歴史を刻んできた宮崎学園短期大学では、親子２世代、そして３世代に渡り本学で学んだ卒業生もいます。

新富町で保育園を営む黒木濱子さんは、娘さんとお孫さんともに親子孫３世代で短大OG。みなさん卒業後、保育士として活躍されています。

黒木濱子さん　保育科（昭和54年卒）　一真保育園　園長
平井修子さん　保育科（昭和59年卒）　一真下新田保育園　副園長
平井真美さん　保育科（平成26年卒）　一真保育園　保育士

創立50周年、おめでとうございます。輝かしい「50周年記念誌」に、投稿させていただき、大変、光栄に存じます。私は社会人学生として、42歳で保育科に入学させていただきました。その時４人の子供を育てながらの「ママさん学生」でした。当時、夫は県内の大学で教鞭をとっていましたが、夫や家族が一丸となって協力してくれました。親子揃って勉強したものです。ピアノの練習は、当時、子供達に出張指導で、自宅に来ていただいておりましたので、私もそこに加わり特訓していただきましたが、私は、なかなか上達できず、それが子供達には、逆に自信づけとなったようです。短大で講義を受けます時は、いつも最前列の席をとり、必死で受講したものです。久しぶりの学校生活でしたので、どの科目も興味深く、何事にも、新鮮さを感じました。諸先生方の熱意あるご指導に、楽しく学べました。クラスメートの青春の悩み相談も受けたりしました。これまでの私の人生の中で、短大での２年間ほど、楽しく、しかも充実した期間はございません。我が人生の２度目の青春でした。

卒業と同時に保育園を開設できました。今年で37年目です。現在、３つの保育園を運営しておりますが、３園の保育士は、ほとんど宮崎学園短期大学卒業生です。後輩達の立派な保育のお陰で入園希望者も多く常に定数を超えております。これもひとえに短大の諸先生方のご指導のたまものと感謝いたしております。

今では、地域の小中高生が、職場体験に保育園にやって来ます。私は地元の中学校から講話の依頼を受けて、保育士の仕事の内容や保育士の資格取得方法等について話しております。特に人間の基礎づくりを担う幼児教育の大切さと、やり甲斐のある仕事であることを話しております。

娘、そして孫娘も宮崎学園短大を卒業後、保育士として本園で活躍しております。親子孫と３代にわたって学ばせていただいたことを誇りに思っております。最後に宮崎学園短期大学の益々のご発展をご祈念申し上げます。

保育科（昭和54年卒）
黒木 濱子
一真保育園 園長
Hamako Kuroki

大坪資秀先生の像

明教庵から清武の町を眺める

本館4Fから太平洋を眺める

中野神社

「息軒かるた」に学生作品採用

本学が位置する宮崎市清武町出身の幕末の儒学者、安井息軒を題材にした「息軒かるた」の読み札に、
本学学生の作品が採用されました。

かるたの制作：
NPO法人安井息軒顕彰会

人間文化学科　医療事務医療秘書コース
（平成27年卒業）の土屋亜佳里さんの作品

人間文化学科　文化ビジネスコース
（平成27年卒業）の中石百香さんの作品

息軒先生の銅像（半九ホール前）

安井息軒先生 家族墓地

息軒先生生家正面のきよたけ歴史館

大学入り口のYショップ

安井息軒先生 生家

美人坂から清武の町を眺める

創立50周年記念行事概略

昭和40年の創立から50年という節目の年を迎えるにあたり、「創立50周年記念行事実行委員会」を立ち上げ、平成27年10月12日の創立記念日に向けて準備を進めて参りました。委員会は宗和太郎学長を委員長とし、その下に記念式典、祝賀会、記念誌の準備にあたる３つのワーキンググループから成ります。

委員長：宗和太郎

- 記念式典ＷＧ
  - 宮﨑 弘尚
  - 野坂 敬
  - 倉永 愛子
  - 倉岡 豊実
  - 木村 匡登
  - 学友会役員
  - 森山 裕文
- 祝賀会ＷＧ
  - 久保 良一
  - 野﨑 豊子
  - 大坪 祥子
  - 柳田 健太
  - 蓑部 初
- 記念誌ＷＧ
  - ウォーカー 祐貴子
  - 原田 真理
  - 黒木 國泰
  - 中武 亮子
  - 渡邉 尚孝
  - 河野 豪
  - 古谷 百合子

創立記念式典

会場　大坪記念ホール
日時　平成27年10月12日（月・祝）
　9:30 ～ 10:30　記念式典
　10:40 ～ 12:00　記念講演　河野俊嗣宮崎県知事
　「宮崎の明日を担う学生に期待するもの」

創立記念祝賀会

会場　ニューウェルシティ宮崎
日時　平成27年10月12日（月・祝）13:00 ～ 15:00

創立記念ロゴマーク

大学案内やホームページ、ポスター、封筒、名刺など本学から発信する広報物で利用するロゴマークを一般公募し、平成27年1月7日から2月20日までの募集期間中に全国から93件の応募を頂きました。選考委員会による厳正なる選考の結果、高知県高知市の濱口温男（はまぐちはるお）さんの作品に決定しました。

デザインの趣旨は、「50をモチーフに、学章をイメージした円は“人と人、心と心を結び学ぶ結い”をイメージしています。未来へ向かって発展していく大学を表現しました。」とのことです。

50th
Miyazaki Gakuen Junior College
50th Anniversary

新校舎建設中！

平成28年3月竣工予定

平成27年1月から校舎建て替え工事が始まりました。通称「音楽棟」で親しまれた旧3号館と中庭の跡地に、地上4階建て、延床面積4621㎡の新校舎を建設中です。新校舎完成後、現在の１号館、2号館も取り壊され、学びの空間として整備されます。各階にラーニングコモンズ（学習スペース）を配置し、更に施設設備の整った新校舎で、新しい歴史が刻まれていきます。

旧1号館

旧2号館

旧3号館

旧3号館取り壊し中

平成27年7月2日起工式

平成27年9月時点

新校舎完成予想図

歴代学長

職　　名	氏　　名	学長在職期間
初代学長	綾　哲　一	昭和40年度～49年度
第2代学長	野　口　逸三郎	昭和50年度～55年度
第3代学長	小　島　正　秋	昭和56年度～62年度
第4代学長	西　原　典　則	昭和63年度～平成6年度
第5代学長	大　坪　孝　雄	平成7年度～18年度
第6代学長	山　下　忍	平成19年度～26年度
第7代学長	宗　和　太　郎	平成27年度～

歴代みどり幼稚園長

職　　名	氏　　名	園長在職期間
初代園長	大　坪　資　秀	昭和35年度～62年度
第2代園長	大　坪　久　泰	昭和63年度～平成元年度
第3代園長	大　坪　邦　資	平成2年度～11年度
第4代園長	大　神　敬　一	平成12年度～14年度
第5代園長	田　邉　芳　男	平成15年度～18年度
第6代園長	酒　匂　醸　以	平成19年度～21年度
第7代園長	和　田　政　吉	平成22年度～

歴代清武みどり幼稚園長

職　　名	氏　　名	園長在職期間
初代園長	大　坪　資　秀	昭和42年度～62年度
第2代園長	米　倉　春　良	昭和63年度～平成8年度
第3代園長	中　山　芳　教	平成9年度
第4代園長	末　吉　広　志	平成10年度
第5代園長	宮　内　文　子	平成11年度～12年度
第6代園長	永　井　憲　章	平成13年度～17年度
第7代園長	松　野　隆	平成18年度～20年度
第8代園長	湯　地　正　隆	平成21年度～25年度
第9代園長	吉　村　久美子	平成26年度
第10代園長	冨　髙　令　子	平成27年度～

旧専任教員

氏　名
綾　哲一
大坪孝雄
大坪昭裕
安藤兼次郎
重松義則
篠原　勇
末原晴人
石川菊雄
土屋満美
中村洋子
鈴木宏子
狩野　満
長倉昌一郎
横山ユキオ
後藤初蔵
石神たか子
野崎　親
山口孝道
満窪鉄夫
片山孝子
安川淑子
池田亮一郎
渡久地政宰
安部彦二郎
曾根　賢
石田良男
大坪邦資
海上利武
池田良三
林　洋子
小川絹代
永野公子
地村俊政
桐井芳美
谷口隆道
平野ミチ

氏　名
松本寛郎
日髙　一
立光敏子
宮崎賢二
渡瀬博司
原田吉雄
兼城昌政
有馬雅美
野口逸三郎
児玉光二
斉藤正浩
見山靖代
永山大二郎
黒木統子
藤川秋子
鈴木順和
原崎正司
野田　享
富高昌子
稲本寅夫
飯川恵理子
多田晴美
矢口裕康
松岡昭宏
服部七郎
小島正秋
内田知己
柳井秀太郎
川野クニエ
加治佐哲也
岩佐正彦
杉田　仲
壷井秀生
黒木喬輔
黒木亜美子
阿部義郎

氏　名
栗山和広
中山至大
平澤　啓
元木久男
小玉寿々代
日野　司
後藤多津子
田中幸子
吉間　保
小野　亀
中間千恵子
小川正子
大塚　稔
リチャードジョンベーカー
貴島一郎
白坂俊一
アレキサンダーシシン
小八重直子
西田次郎
常盤哲郎
田尻龍正
佐伯正光
西原典則
日髙英幸
米倉春良
荒木徳蔵
濱田芳子
山田康彦
塚本泰造
田中司郎
廣瀬千尋
岩動志乃夫
ミシェル・ル・ル
市崎一章
髙妻紳二郎
大坪勝郎

氏　名
城　野　精　豊
ブレーク C ピンデル
デビット G トンプソン
マクナリティ パトリシア
片　野　郁　子
守　川　美　輪
ホング ホア
前　田　　淳
ジェイソン・アダチ
塩　屋　シャロン
ジョシェル コフィー
別　府　昌　記
スティーブン ブレークスリー
丸　山　敏　夫
佐々木　昌　代
スティーブン M スナイダー
林　田　勇　蔵
ペートラ M ビィッシャー
ローリー エリザベス ストーン
S L ヴァンドレサー
中　村　利　昭
野見山　寿　美
山　下　　忍
大　坪　　學
加　藤　輝　夫
重黒木　一　光
中　山　芳　教
藏　重　幸　子
綾　部　友　絵
ウェイン シェルライン
三　森　　猛
宮　内　文　子
カーニー スミンキー
屋　良　　勝
大　神　敬　一
西　下　勝　治

氏　名
眞　茅　喜　宏
永　井　憲　章
並　　夕　ツ
安　井　紀　子
安　藤　嘉　章
竹　長　イツ子
田　邉　芳　男
江　田　美代子
福　留　美　香
田　爪　千　春
竹　村　義　政
飯　干　逸　雄
黒　木　行　洋
橋　口　玄　郎
三ヶ尻　恭　子
野　﨑　秀　正
米　良　郁　子
山　下　亜紀子
松　野　　隆
児　玉　暁　子
酒　匂　醸　以
江　村　理　奈
伊　東　信　一
北　村　秀　秋
末　平　浩　康
椋　木　香　子
坂　元　マモル
米　良　栄　州
佐　藤　芳　信
湯　地　正　隆
井　手　茂　郎
川　越　志　保
黒　瀬　美智子
齋　藤　典　子
桑　畑　洋一郎
谷　口　和　子

氏　名
川　野　哲　朗
菅　　邦　男
工　藤　　歩
吉　村　久美子

旧専任職員

氏　名
大　坪　誠　夫
永　江　紀一郎
武　田　実　法
藤　本　瀧　一
黒　木　ヒ　口
藤　原　貴美子
大　石　弘　美
豊　富　武　雄
高　森　きよみ
熊瀬川　雄　子
黒　木　美代子
園　田　英　美
笠　村　恵美子
元　越　ヒ　サ
串　間　ナラヲ
藤　本　文　子
関　屋　愛　子
森　　和　子
吉　村　加代子
山　崎　ヒロ子
荒　武　萬紀子
増　田　きよ子
中　馬　えり子
柿　木　美　鶴
前　田　節　子
小　松　　清
横　光　孝　子
石　尾　佳代子
長　嶺　京　子
白　坂　志　郎
佐　多　央　子
勝　俣　真知子
首　藤　政　太
中　竹　淳　子
首　藤　志保子
淵　　克　己
淵　　須磨子
川　崎　加代子
中　島　幸　子
篠　原　智恵子

氏　名
上　園　裕　子
大　石　道　雄
坂　本　蓉　子
戸　髙　慶太郎
柴　田　涼　子
下　城　輝　子
黒　木　国　俊
下　永　弘　子
谷　川　　勝
谷　川　君　子
成　合　徳　三
根　井　　隆
秋　丸　利　恵
川　崎　聖　子
石　田　仁　美
東杢比野　美保
押　川　絹　代
関　屋　公　幸
立　石　ひとみ
郡　　美　枝
西　田　香　代
大　岐　貞　子
中　山　水　木
池　田　清　治
大　山　浩　美
長　沼　京　子
菊　池　一　代
浅　部　和　子
小　島　瑛　子
佐　藤　浄　子
田　原　亜紀子
山　下　直　美
吉　永　澄　雄
安　楽　良　行
湯　淺　ヨシ子
森　山　直　美
清　田　典　雄
中　城　待　江
中　城　寿　広
幸　　順　子

氏　名
荒　武　ゆみ子
岩　政　亜　夜
門　田　明　美
森　本　信　子
森　本　正　重
柴　田　幸　子
長　友　聖　次
田　村　美紀子
湯　地　知　子
宮　副　正　克
田　上　普美子
岩　切　靖　宣
横　山　篤　博
坂　元　弘　二
太　田　三　夫
佐　藤　一　成
髙　橋　利　行
田　村　広　美
髙　橋　明　美
長谷川　悦　子
長谷川　　誠
的　場　　恵
川　添　武　彦
児　玉　純　子
古　田　　豊
三　樹　典　子
永　山　満理子
川　越　涼　子
神　崎　泰　知
湯　地　　寿
佐々木　ゆかり
河　野　　包
長谷川　栄　子

現教職員一覧

職　名	氏　　名	担当教科目
理事長･教授	山 下 恵 子	音楽療法の理論と技法
学長･教授	宗 和 太 郎	教育原理
学長付部長･教授	野 坂 敬	社会的養護
学長付部長･教授	久 保 良 一	ビジネス実務総論
教　授	原 田 真 理	日本語表現法
〃	黒 木 國 泰	歴史学
〃	髙 橋 裕	図画工作Ⅰ・Ⅱ
〃	花 畑 明 美	介護過程総論
〃	岩 切 徹 志	人間の研究Ⅱ（勤労）
〃	中 武 亮 子	あそびと音楽Ⅰ・Ⅱ
〃	和 田 政 吉	教職概論
准教授	池 田 敦 子	ソルフェージュ
〃	大 坪 祥 子	保育原理
〃	後 藤 祐 子	保育内容の研究表現
〃	倉 永 愛 子	人間の研究Ⅰ（礼節）
講　師	宮 﨑 弘 尚	教育課程論
〃	米 田 千 穂	介護福祉概論Ⅰ
〃	久 松 尚 美	幼児教育相談
〃	白 石 知 子	子どもの食と栄養
〃	倉 岡 豊 実	人間の研究Ⅱ（勤労）
〃	武 村 順 子	健康と疾病
〃	兒 玉 京 子	情報処理概論
〃	渡 邉 尚 孝	幼児教育相談
〃	木 村 匡 登	社会福祉論
〃	柳 田 健 太	情報処理概論
〃	戸 敷 早 苗	日常生活支援技術Ⅰ～Ⅲ
〃	松 下 律 子	人間の研究Ⅰ（礼節）
〃	冨 髙 令 子	低年齢児保育
〃	泰 田 久 史	図画工作Ⅰ・Ⅱ
〃	井 上 浩 義	教育心理学
〃	髙 妻 弘 子	保育内容の研究健康
〃	齋 藤 隆 文	情報処理概論
〃	小 澤 拓 大	教育心理学
助　教	東 真 美 子	あそびと音楽Ⅰ・Ⅱ

職　名	氏　　名	主な担当業務
事務局長	野 﨑 豊 子	総　括
入試広報部長	ウォーカー祐貴子	入試広報
入試広報次長	髙 山 正 和	入試広報
就職指導課長	佐土原 敦	就職指導
総務課長	森 山 裕 文	総務総括
教務課長	河 野 豪	教務総括
総務係長	古 谷 百合子	総　務
書　記	柏 田 純 子	教　務
〃	新 見 正 美	総務・学生支援
〃	津 曲 肇	教　務
〃	宮 田 俊 子	養護・学生支援
〃	蓑 部 初	会計・用度
〃	青 井 京 子	会計・売店・環境整備
〃	兼 佐 麻友美	学生支援
非常勤職員	坂 邉 夕 子	カウンセリング

宮崎学園図書館職員

職　名	氏　　名	主な担当業務
館　長	菅 邦 男	総　括
図書課長	小 橋 智 子	事務総括
書　記	山 元 奈 々	資料発注・受入・整理
〃	羽 生 由三子	カウンター全般
〃	黒 木 亜美子	閲覧・整理補助
非常勤職員	岡 留 直 美	資料整理
〃	見 戸 澄 子	カウンター全般
〃	中 村 香 織	資料整理

現教職員一覧

職　名	氏　　名	担当教科目
併任講師	菅　　邦男	文学
〃	日髙　英幸	化学
〃	田中　幸子	器楽Ⅰ・Ⅱ
〃	橋口　泰宣	教職概論
〃	嶋　　政弘	健康の科学
〃	片野　郁子	あそびと音楽Ⅰ・Ⅱ
〃	守川　美輪	保育指導法Ⅲ
〃	中原　邦博	教育課程論
〃	相戸　晴子	社会福祉論
〃	マレー　アダム	コミュニケーション英語Ⅰ
〃	大竹　正純	コミュニケーション英語Ⅰ
〃	渡邊　耕二	数学
非常勤講師	末平　浩康	声楽
〃	岩切　貴史	日本国憲法
〃	湯地　正隆	保育内容の研究環境
〃	黒木　千万人	障害児保育Ⅰ
〃	有川　サチ子	合　　唱　Ⅰ
〃	シムウェル･英華	ピアノ
〃	黒木　登志夫	医療関係法規
〃	西田　和枝	健康の科学
〃	平原　博子	保育内容の研究健康
〃	野津原　　裕	介護福祉概論Ⅰ
〃	米岡　光子	ビジネス実務演習
〃	坂元　俊彦	介護福祉概論Ⅱ
〃	米田　健一	障害総論
〃	齋藤　俊子	低年齢児保育
〃	田中　陽子	障害総論
〃	日野　真一郎	解剖生理
〃	松本　眞理子	障害児保育Ⅰ
〃	飯尾　充子	小児体育Ⅰ・Ⅱ
〃	工藤　道子	あそびと言葉
〃	山崎　友義	医療情報学
〃	巻　　庄次郎	図書館サービス概論
〃	植田　美穂	コミュニケーション英語Ⅰ
〃	石神　聖徳	情報処理論Ⅱ
〃	畦浦　敏彦	保育指導法Ⅱ
〃	興梠　マリア	コミュニケーション英語Ⅰ

職　名	氏　　名	担当教科目
〃	中島　恵子	音楽療法総合演習
〃	黒瀬　美智子	健康の科学
〃	松木　以喜子	児童サービス論
〃	木村　貴信	臨床検査と薬の知識
非常勤講師	井形　明子	秘書実務演習
〃	坂元　マモル	保育士資格取得特例講座担当
〃	清水　嘉子	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	矢野　倫代	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	押川　慈代	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	米良　直子	ピアノ
〃	土田　悦子	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	甲斐　磨有美	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	熊田原　匡子	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	安楽　三由紀	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	山本　優子	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	工藤　貴子	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	土田　　浩	器　楽
〃	宮里　由実	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	竹之下　真理	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	仙頭　睦美	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	吉松　佳子	声　楽
〃	東　　由子	声　楽
〃	濱田　さおり	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	美吉　玲子	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	國部　美和子	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	日高　彩子	器　楽　Ⅰ・Ⅱ
〃	馬籠　奈津子	音楽療法の理論と技法
〃	細山田　　晃	器　楽
〃	平山　美津代	器　楽
〃	大石　純子	器　楽
〃	中山　ゆかり	器　楽
〃	佐藤　由紀枝	図書館情報資源概論
〃	糸数　朋世	医療保険事務演習
〃	中武　紋子	音楽療法臨床実習Ⅰ～Ⅳ
〃	中武　詩織	音楽心理学
〃	星崎　明里	音楽療法臨床実習Ⅰ～Ⅳ

年度別卒業者数

卒業年次	保育科	初等教育科	音楽科	人間文化学科	国文科	英語科	専攻科（福祉専攻）	専攻科（音楽療法専攻）
	卒業生数	卒業生数	卒業生数	卒業生数	卒業生数	卒業生数	修了	修了
昭和41年	110	-	-	-	-	-	-	-
昭和42年	171	-	-	-	92	-	-	-
昭和43年	154	86	-	-	58	-	-	-
昭和44年	161	106	-	-	54	-	-	-
昭和45年	160	53	-	-	35	-	-	-
昭和 46 年	155	48	44	-	42	-	-	-
昭和 47 年	156	58	46	-	51	-	-	-
昭和 48 年	154	49	31	-	38	-	-	-
昭和 49 年	158	64	38	-	37	-	-	-
昭和 50 年	178	88	41	-	58	-	-	-
昭和 51 年	180	93	33	-	62	-	-	-
昭和 52 年	213	84	37	-	69	-	-	-
昭和 53 年	221	104	38	-	65	-	-	-
昭和 54 年	192	82	33	-	74	-	-	-
昭和 55 年	191	82	31	-	62	-	-	-
昭和 56 年	216	75	40	-	65	-	-	-
昭和 57 年	213	82	25	-	70	-	-	-
昭和 58 年	224	95	45	-	80	-	-	-
昭和 59 年	224	100	42	-	96	-	-	-
昭和 60 年	164	84	35	-	70	-	-	-
昭和 61 年	193	92	32	-	63	-	-	-
昭和 62 年	207	110	41	-	82	92	-	-
昭和 63 年	203	95	41	-	84	99	-	-
平成 1 年	189	138	49	-	94	118	-	-
平成 2 年	168	104	36	-	97	103	-	-
平成 3 年	169	123	34	-	98	118	-	-
平成 4 年	171	108	37	-	120	163	-	-
平成 5 年	148	103	42	-	119	171	-	-
平成 6 年	175	106	34	-	121	168	-	-
平成 7 年	170	75	27	-	125	142	-	-
平成 8 年	156	76	35	-	96	91	-	-
平成 9 年	148	73	34	-	65	104	-	-
平成 10 年	147	74	35	-	85	88	33	-
平成 11 年	183	59	36	-	63	83	33	-
平成 12 年	195	37	32	-	71	65	33	-
平成 13 年	200	24	25	-	46	47	52	-
平成 14 年	208	28	25	-	30	42	45	16
平成 15 年	251	51	19	-	37	29	50	11
平成 16 年	236	60	24	78	2	-	49	15
平成 17 年	241	57	27	65	-	-	51	16
平成 18 年	214	48	20	35	-	-	47	14(1)
平成 19 年	202	29	27	42	-	-	52	12(5)
平成 20 年	204	35	11	75	-	-	47	3(3)
平成 21 年	202	28	18	66	-	-	38	4(4)
平成 22 年	174	18	11	56	-	-	54	10
平成 23 年	175	22	13	31	-	-	36	8
平成 24 年	229	23	13	44	-	-	29	3
平成 25 年	184	18	15	43			50	5
平成 26 年	215	22	8	46	-	-	41	8
合　計	9152	3269	1360	581	2676	1723	740	1年125,2年13

※９月卒業生は、当該年度に含む。
※専攻科（音楽療法専攻）：（　）内は２年課程。平成２２年度募集停止。

編集後記

創立50周年記念誌ワーキンググループでは平成27年1月27日に開催した第1回会議で、この記念誌を「在学生、卒業生、教職員がこれまでの歴史を理解するとともに、ここに集まった喜びと誇りとを共有できるものとする」としました。そして、過去を振り返るだけではなく、未来に向かってさらに発展する姿を示したいと、「地域に根ざして半世紀」「日本一の短大を目指して」がテーマの候補にあがり、最後まで私たちの願いを表すこれ以上の言葉は見つからず、本誌の扉にその両方が入ることとなりました。

お忙しい中、原稿をお寄せ頂きました河野知事様、戸敷市長様をはじめ、同窓会会長、後援会会長、卒業生、在学生、外関係者の皆様にここで改めて厚くお礼申し上げます。また、初年度の募集要項など創立時の貴重な資料は野﨑豊子事務局長の秘蔵ファイルから頂きました。座談会は叶わないが現存する書き物を紡げば本学の足跡が辿れるのでは、との黒木國泰先生のアイデアと渡邉尚孝先生のご苦労によって、創立者や歴代学長のご苦労や思いが生き生きと蘇りました。本学が長年続けてきた地域貢献活動には原田真理先生、中武亮子先生が温かい光を当てられました。これまで本学を支えて下さった全ての教職員に感謝の意を表す名簿は河野豪課長、古谷百合子係長に担当して頂きました。そしてそれら全てを形にしたのは宮崎南印刷の植田さんと伊東さんです。最後までしっかり伴走くださり、感謝しています。

多くの方のお力でできあがったこの記念誌が、本学を愛する仲間達が誇りをもって心を一つにし、未来に向かって力を合わせる一助になれば、こんなに嬉しいことはありません。宮崎学園短期大学よ、永遠なれ！

50周年記念誌ワーキンググループ　ウォーカー祐貴子

宮崎学園短期大学創立50周年記念誌

発　行　日　平成27年10月12日

発　　行　宮崎学園短期大学

制作・印刷　(株)宮崎南印刷